

好奇心から「知性」をはぐくむ

心理学者・臨床心理士 植木理恵



ひとは、大人になるにつれて失っていくものがあります。

聞きなれない言葉ですが、それは「原初的好奇心」というものです。どういうものかといいますと「理由なく、とにかく湧き出てきて仕方がない興味」のこと。幼稚園くらいの年齢の子どもたちは、大人から見ると、これに関しては偉大な先生です。

たとえば、お母さんのスマホやエプロンをかじったり舐めたりしては、いつまでも手放そうとしません。あきれるほど何回も同じ絵を描いては、「先生見て！」とすがります。全身泥んこになりながら、何だか必死の形相で、土を掘っては埋めています。

こういう力は、まさに「理由なく」湧き出てくる興味のなせるわざ、「原初的好奇心」です。

子どもたちは、「これはムダな情報」「それはいろいろな行動」といった、大人のような分けへだてをしません。目に入るすべてのことを心に吸いこもうとします。

大人から見ると、「もう、なんでそんな事をするの？」と分からないことだらけ。危ないことも多いし、正直ストレスもたまってくる。無意識のうちに大人は、こういった子どもの原初的好奇心を「つぶす」ことに必死の毎日を送っているのです。

その結果、子どもたちが7歳になる頃には、みごとに大人がその戦いに「勝利」します！つまり、「別に興味ない」「それって意味あるの？」が口ぐせの、あの無気力な若者へと、しだいに変身し始めるわけです。

ちっとも嬉しい勝利ではありませんよね。幼稚園までの間に、「いいからやめなさい」と毎日頭ごなしに言われることで、子どもは「そうか、自分は『無関心』でいればOKなんだ」という考えグセを覚え

てしまうのです。

反対に、「原初的好奇心」が満たされた子どもは、次のステップ、つまり「知的好奇心」という、高い発達段階に進めることが、発達心理学で実証されています。

理由なく湧き出てくる原初的好奇心を大人から消されるのではなく、支えられてはじめて「それはなぜかな？」「どう調べたら分かるのかな？」という、理由を探究する高度な好奇心が芽生えます。それが「種」となって、伸びやかに「知性」が育まれ、内面の豊かな少年少女へと成長していけるのです。

「原初的好奇心を満たす」。難しく聞こえるかもしれませんが、養育者の役割として重要なことは、ただ一つです。それは、子どもの抱く興味に対して、ひと言でもいいから「肯定的な共感」を口に出してみせるということ。

つまり、叱ったり指導をしたりする前に、一度は「あらら、泥んこになるほど楽しかったんだ！」と、子どもの感情を代弁してあげることです。極例ですが、たとえライターを危なくいじっていたとしても、「面白いの？」とやはり一度は感情に沿うことが大切です。

その上で、ダメなことはダメなのだと、しっかり指導をしてあげてください。子どもの心には、叱られた悲しさだけではなく、共感してもらった「温かさ」が残ります。先生方の言葉が、しっかり心に入ります。

駆け足で書いてしまいましたが、より心理学にご関心のある方は、拙著『人を育てる～「やる気」の心理学理論～』（近日発売）にて、補足をさせて頂ければ幸いに存じます。

事業報告・事業計画案などを議決

平成30年度 定時総会 5月23日 東京・私学会館

平成30年度の定時総会は5月23日(水)、東京・私学会館において全国から評議員156人(委任状27人含む)が出席して開催されました。

北條泰雅副会長の開会の言葉に続き、来賓の文部科学大臣・林芳正参議院議員、全日本私立幼稚園PTA連合会会長・河村建夫衆議院議員、自由民主党幼児教育議員連盟会長・中曽根弘文参議院議員、自由民主党幼児教育議員連盟事務局長・馳浩衆議院議員、全日本私立幼稚園PTA連合会副会長・遠藤利明衆議院議員、全日本私立幼稚園PTA連合会副会長・山本順三参議院議員、自由民主党幼児教育議員連盟事務局長・山谷えり子参議院議員に挨拶をいただきました。そのほか、来賓として文部科学省より高橋道和初等中等教育局長、村田善則高等教育局私学部長、先崎卓歩初等中等教育局幼児教育課長に出席いただきました。続いて、香川敬会長から「新制度施行4年を経過し、改めて検証していかなければならない。また、幼児教育振興法の日も早い成立が待たれる。全日としても努力してまいりたい」旨、挨拶がありました。その後、議長の選出に移り、二井睦(三重・和順)、水谷豊三(大阪・日吉)両氏を選出し、続いて12名の議事運営委員が紹介され、松下瑞應(和歌山・湯浅)議事運営委員長から総会成立の確認、議案と議事進行について説明がありました。議事録署名人には田中邦昌氏(静岡・みのる)、宮崎史郷氏(福岡・大牟田たちばな)を選出し、議事に入りました。

■審議事項(1)平成29年度事業報告・収支決算承認の件については、各委員会委員長、プロジェクト座長より報告がありました。続いて、田中辰実総務委員長から収支決算について説明がおこなわれ、



文部科学大臣
林芳正・参議院議員



全日本私立幼稚園
PTA 連合会会長
河村建夫・衆議院議員



自由民主党
幼児教育議員連盟会長
中曽根弘文・参議院議員



自由民主党
幼児教育議員連盟事務局長
馳浩・衆議院議員



全日本私立幼稚園
PTA 連合会副会長
遠藤利明・衆議院議員



全日本私立幼稚園
PTA 連合会副会長
山本順三・参議院議員



自由民主党
幼児教育議員連盟事務局長
山谷えり子・参議院議員

伊藤夏夫監事から厳正かつ適正に処理されている旨の監査報告があり、挙手多数にて承認されました。

■審議事項(2)平成30年度事業計画案・収支予算案承認の件については、田中総務委員長より事業計画の趣旨説明があり、続いて各委員会委員長、プロジェクト座長が事業計画案の説明をおこないまし

た。次に田中総務委員長より収支予算案の説明があり、これら原案は挙手多数にて承認されました。

■審議事項（３）役員改選の件については、田中総務委員長より正副会長の候補者について報告があり、挙手多数にて承認されました。

会 長 香川 敬（山口・鞠生幼稚園）

副会長 田中雅道（京都・光明幼稚園）

副会長 田中辰実（石川・ちよの幼稚園）

副会長 小澤俊通（神奈川・厚木田園幼稚園）

副会長 四ツ釜雅彦（埼玉・菖蒲幼稚園）

副会長 尾上正史（福岡・紅葉幼稚園）

副会長 安達 譲（大阪・せんりひじり幼稚園）

■報告事項（１）全日本私立幼稚園連合会からの報告については、尾上正史座長より「こどもがまんなか PROJECT」普及啓発についてのお知らせがありました。



■報告事項（２）（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構からの報告については、田中雅道理事長より免許状更新制度、改訂新版研修ハンドブックの活用等について詳しい解説がありました。

最後に村山十五副会長の言葉で閉会しました。

（調査広報編集委員・前田 幹）

● 5. 8 理事会

平成 2 9 年度事業報告・収支決算を議決

5月8日（火）東京・私学会館にて全日私幼連理事会が開催され、理事58名が出席しました。小澤俊通副会長の開会の言葉の後、香川敬会長よりあいさつが述べられました。その後、議長に畠山遵氏（富山）と濱名浩氏（兵庫）、議事録署名人に内橋彰氏（長崎）と大矢野隆嗣氏（熊本）を選出しました。

行政報告として文部科学省初等中等教育局幼児教育課長の先崎卓歩氏より平成 30 年度における一時預かり事業（幼稚園型）の充実について報告がありました。

審議案件（１）各委員会委員長等より平成 29 年度事業報告の説明がありました。（２）平成 29 年度収支決算を田中辰実総務委員長、会務監査を伊藤夏夫監事から報告があり全会一致で定時総会へ上程されました。（３）香川会長より副会長の選任について説明がありました。

続く報告案件では、各委員会委員長等より会務運

営報告がありました。

次に（公財）全日私幼研究機構安家周一副理事長と、宮下友美恵研究研修委員長より研修スタンプについて報告がありました。

その他田中総務委員長より定時総会（5/23）、坪井政策委員長より全日本私立幼稚園 P T A 連合会委員総会開催（予定）の報告がありました。最後に北條泰雅副会長より閉会の言葉が述べられ、終了しました。

（総務委員長・田中辰実）

☆新しい団体長（平成 30 年 5 月 23 日現在）

新潟県＝角谷正雄・金城

岡山県＝光岡美恵子・つしま

徳島県＝岡本和貴・わかくさ

佐賀県＝山崎立哉・吉野ヶ里こども園

*氏名・園名／敬称略

= 総務委員会 =

委員長＝田中辰実、副委員長＝安西 透、宮崎史郷、委員＝近藤 宏、三吉博史、滝田昌孝、知久賢治、篠田佳幸、大西建太郎、佐藤康広、朝野卓也、委員会＝4 回開催

平成 29 年度は、①各種会議の運営を図り、会務運営の協議を行った。また正副会長・委員長会を開催し、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構および各委員会の活動状況報告ならびに情報交換を行った。②予算・決算および会計その他財務全般に関する会務執行状況の確認を行った。③会務執行上、一般会計予算・特別会計予算の補正を行った。④JK 保険の内容を検討し、加入促進に努めた。⑤こどもがまんなかPROJECTの協力金活動を行った。⑥永年勤続者表彰事業を行った。⑦幼児教育振興法の制定に向けた特別会計の執行状況についての確認を行った。

全日私幼連の諸活動の財源である一般会費は年度内に完納していただきましたことにお礼申しあげ、ご報告申しあげます。

【具体的活動内容】

1. 会議の開催／(1) 定時総会：平成 29 年 5 月 24 日東京・私学会館（出席者 125 人）(2) 理事会：平成 29 年 5 月 9 日東京・私学会館（出席者 58 人）9 月 8 日東京・私学会館臨時（出席者 59 人）12 月 5 日東京・私学会館合同（出席者 60 人）平成 30 年 1 月 30 日東京・私学会館合同（出席者 62 人）3 月 13 日東京・私学会館合同（出席者 60 人）(3) 常任理事会：平成 29 年 4 月 25 日東京・私学会館（出席者 31 人）6 月 13 日東京・私学会館（出席者 29 人）9 月 8 日東京・私学会館（出席者 28 人）11 月 17 日東京・私学会館（出席者 29 人）平成 30 年 2 月 16 日東京・私学会館（出席者 28 人）(4) 団体長会：平成 29 年 12 月 5 日東京・私学会館合同（出席者 45 人）平成 30 年 1 月 30 日東京・私学会館合同（出席者 44 人）3 月 13 日東京・私学会館合同（出席者 46 人）(5) 監査会：平成 29 年 4 月 21 日東京・全日私幼連事務局（出席者 6 人）11 月 8 日東京・全日私幼連事務局（出

席者 6 人）

2. 関係団体との連絡／(1) 内閣府：男女共同参画推進連携会議：議員・香川敬、子ども・子育て会議・基準検討部会：委員・坪井久也、(2) 文部科学省：私学共済年金研究会：協力者・村山十五、中央教育審議会初等中等教育分科会：臨時委員・田中雅道、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会：臨時委員・田中雅道、特別支援教育ネットワーク推進委員会：委員・安家周一、教員資格認定試験：委員・東重満、(3) 厚生労働省：児童虐待防止対策協議会：委員・香川敬、(4) 日本私立学校振興・共済事業団：共済運営委員会：委員・村山十五、共済年金制度研究委員会：委員・村山十五、(5) 私学研修福祉会：理事・村山十五、評議員・尾上正史、(6) 全私学連合代表者会議：委員・香川敬、北條泰雅、村山十五、尾上正史、(7) 全国私立学校審議会連合会：副会長・友松浩志、(8) 日本ユニセフ協会：顧問・香川敬、(9) OMEP 日本委員会：理事・香川敬、(10) 日本防火・防災協会：評議員・尾上正史、(11) 日本スポーツ振興センター学校安全推進会議：委員・村山十五、(12) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会：顧問・香川敬

3. 役職員出張／各地区の研修会や地区会・都道府県団体に役職員が出張した。

4. 表彰事業／永年勤続表彰：50 年以上の設置者・園長 19 人、教職員 10 人。40 年以上の設置者・園長 42 人、教職員 41 人。30 年以上の設置者・園長 45 人、教職員 138 人。20 年以上の設置者・園長 32 人、教職員 403 人。合計 730 人。

5. 全日私幼連要覧の作製／2018 年版の要覧(Vol.31)を作成し、全日私幼連ホームページに掲載した。

6. 保険・福利厚生に関する事項／全日私幼連保険制度の理解を深め、その充実と加入促進を図り実績をあげた。

7. 推薦、協力、後援／推薦：①平成 29 年度版・たのしいなつ（チャイルド本社）②平成 29 年度版・なつのおともだち（フレーベル館）③映画「それいけ!アンパンマン ブルブルの宝探し大冒険!」（フ

レーベル館)／協力：平成 30 年度第 72 回児童福祉週間(厚生労働省)／後援：①平成 29 年度こども環境管理士資格試験(日本生態系協会)②第 12 回子ども身体運動発達指導士養成講習会(日本スポーツクラブ協会)③平成 29 年度就職説明会(全千葉県私立幼稚園連合会)④第 38 回全国歯科保健大会(厚生労働省)⑤第 12 回香川県私学振興大会(香川県私立中学高等学校保護者会)⑥平成 29 年度高知県私立幼稚園 P T A 大会(高知県私立幼稚園 P T A 連合会)⑦子どもの虐待防止推進全国フォーラム(厚生労働省)⑧ユネスコスクール全国活動(文部科学省)⑨第 66 回全国幼児教育研究大会(全国幼児教育研究協会)⑩世界自閉症啓発デー・シンポジウム(日本自閉症協会)⑪第 15 回おやじ日本全国大会(認定特定非営利活動法人おやじ日本)⑫第 11 回ビルメンこども絵画コンクール(全国ビルメンテナンス協会)⑬第 50 回全国情緒障害教育研究協議会徳島大会(全国情緒障害教育研究会)⑭平成 30 年度の活動について(ダンス教育振興連盟 J D A C)⑮第 13 回長崎県私学振興大会(長崎県私立中学高等協会)⑯フードシステムソリューション 2017(フードシステムソリューション実行委員会)⑰全国学校・園庭ビオトープコンクール 2018(日本生態系協会)⑱第 50 回手紙作文コンクール、全日本年賀状コンクール(日本郵便株式会社)⑲日本乳幼児教育学会大会(日本乳幼児教育学会)⑳子育て

てフォーラム in とくしま(徳島県私立幼稚園協会)㉑第 23 回日本保育保健学会(日本保育保健学会)㉒日本子ども虐待防止学会第 24 回学術集会(日本子ども虐待防止学会学術集会)／協賛：①平成 30 年春・秋の全国交通安全運動(内閣府)②平成 30 年度「道路ふれあい月間」(国土交通省)

= 政策委員会 =

委員長＝坪井久也、副委員長＝石田明義、北川定行、委員＝佐藤三幹、秋元信行、鈴木教義、福井徹人、石井和則、松原直俊、小林直樹、山崎拓史、大矢野隆嗣、委員会＝3 回開催

【具体的活動内容】

平成 30 年度政府予算については、正副会長、政策委員会が一丸となって取り組んだ結果、私立高等学校等経常費助成費補助(幼稚園分)が 1 人当たり単価 23,688 円(1.0%増)、地方交付税分(1.4%増)を合わせ園児 1 人当たり単価 184,888 円(1.3%増)となった。更に、地方交付税において新たに人材確保支援事業分の措置が創設された(これを加えた地方交付税単価の伸び率は 1.8%増)。

幼稚園就園奨励費補助については、年収 360 万円未満の世帯の第 1 子、第 2 子の大幅な負担軽減を実現し「幼児教育の無償化」に向けて一歩前進した。



新しいものを見るたび、触れるたび、

目覚ましく成長する子どもたち。

子どもたちにとって、毎日が成長の舞台です。

育む環境で、子どもたちの明日は変わる。

だから、私たちは大切なことを「環境」から考えます。

好奇心や想像力、勇気や感動。

そして、子ども同士の関わり合い。

子どもたちが大切な時期に、確かな一歩を踏み出せるように、

最良な環境の未来をつくりあげていきます。

こども環境の未来をつくる



ジャクエツ

全日私幼連 平成 29 年度事業報告

子ども・子育て支援新制度は平成 27 年 4 月のスタートから 3 年が経過し、私立幼稚園からの移行が徐々に進み、平成 30 年 4 月時点で約 44.5%の移行率と予想されている。本連合会としては、国の子ども・子育て会議等において、新制度の公定価格の加算措置や人員配置などの見直し、市区町村における運用面の不適切な事例の改善を求めてきた。

当委員会は私学助成園と新制度園との間の税制上の不公平の是正策の検討、すべての私立幼稚園等の教職員の処遇改善策等について要望を行った。また、国が推進する「幼児教育・保育の無償化」への対応、幼稚園における 2 歳児の受入れなど当面する諸課題への対応を行った。

さらに、幼児教育全体を国の優先施策と位置づける「幼児教育振興法」については、引き続き早期成立を求め、自民党文部科学部会幼児教育小委員会、幼児教育議員連盟とも連携し活動を行った。

研修については、設置者・園長全国研修大会（10 月）の研究講座担当の他、都道府県政策担当者会議（10 月）を開催し、新制度の問題点の検討、私立幼稚園の現在、将来の課題について検討を行った。

＝ 教育研究委員会 ＝

委員長＝宮下友美恵、副委員長＝加藤篤彦、川原恒太郎、委員＝藪 淳一、小野寺靖子、高倉幸世、佐藤緑郎、西片紀美子、村手 敦、濱名 浩、水原紫乃、岡本和貴、淵 和子、吉井 健、専門委員＝岡本潤子、亀ヶ谷忠宏、安達 譲、黒田秀樹、協力委員＝秦 賢志、委員会＝8 回開催

【具体的活動内容】

教育研究委員会の事業は、（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・研究研修委員会において実施しているため、（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の平成 29 年度事業報告書に記載。

＝ 経営研究委員会 ＝

委員長＝尾上正史、副委員長＝堀江眞嗣、水谷秀史、委員＝今西界雄、飯塚拓也、遠藤英昌、鮎川 剛、

池田 清、藤井宣昭、森 一男、溝口栄仙、委員会＝4 回開催

【具体的活動内容】

1. 第 33 回設置者・園長全国研修大会の企画および実施／平成 29 年 10 月 16 日（月）・17 日（火）の 2 日間、大分県私立幼稚園連合会の協力のもと、大分市・大分オアシスタワーホテルを会場にて開催。全国各地から 470 人の設置者・園長が参加。大会初日は開会式に引き続き、伊藤京子氏（ピアニスト / （公財）アルゲリッチ芸術振興財団副理事長 / 別府アルゲリッチ音楽祭総合プロデューサー / しいきアルゲリッチハウスプロデューサー）の記念講演『音楽と共に紡ぐ未来－こどもたちへ伝えたいこと』、先崎卓歩氏（文部科学省初等中等教育局幼児教育課長）の行政報告『私立幼稚園を取り巻く現状と課題』、脇貴志氏（株式会社アイギス代表取締役）の基調講演『事故現場には後悔しかない～14 年間、保育の事故現場で見てきたこと～』が行われた。翌日 17 日は、「研究講座 1（教育）」演題：『幼児教育の質向上をめざしたカリキュラム・マネジメント』『研究講座 2（振興）」演題：『今後の私立幼稚園の振興をめざして』『研究講座 3（経営）」演題：『事例からみる危機管理研修～あなたの園は大丈夫ですか？～』『研究講座 4（認定こども園）」演題：『課題と見直しに向けて』以上、4 講座を実施した。

2. 平成 29 年度（第 29 回）私立幼稚園経営実態調査の実施と報告／全日私幼連加盟園の 7,548 園に実施調査票を配布し、3,910 園（回収率 51.8%）から回答を得た。調査結果をもとに、保育料等の分析を行い、報告を全日私幼連ホームページならびに全日私幼連要覧 2018 にて行った。なお、本年度は特別支援児数、預かり保育、借入金、子ども・子育て支援新制度等に関する調査も実施し結果を掲載した。

3. 子ども・子育て支援新制度への対応／第 33 回設置者・園長全国研修大会（大分県・大分市）において、新制度の課題や各地の現状を踏まえて認定こども園の今後について研究講座を実施した。

4. 幼児教育振興法の早期制定に向けた活動に関する事項／幼児教育振興法の根幹である質の高い幼児

教育を実施できるよう、設置者・園長全国研修大会の研究講座を行った。

5. 幼稚園教育を中心とする幼児教育の無償化に関する事項／他委員会と連携して対応を行った。

6. 後継者育成研修会の開催／2月19日（月）東京・ホテルグランドヒル市ヶ谷にて、若手を育成し次世代の後継者を養成することを目的とした、『後継者育成研修会』を開催し全国から190名が参加。開会の後に、行政報告が日野力氏・文部科学省初等中等教育局幼児教育課幼児教育企画官より『幼児教育の無償化と2歳児の受け入れについて』と題して行われた。次に講演が安岡知子氏より『保育者の育成と定着を図る「人財マネジメント」』と題して行われた。続いて、各グループに分かれてワークショップを行い、参加者と一緒に講演を受けてからの問題について話し合い、アドバイス等を募りながら活発な意見交換を行った。

7. 人材確保に関する事項【幼稚園ナビ】／本年度、文部科学省が実施する『幼稚園の人材確保支援事業』の委託を受け、求人サイト（幼稚園ナビ）作成事業を行った。幼稚園ナビは、求職者と幼稚園側の双方に情報を提供し円滑に幼稚園に就職することを目的としており、求職者登録（新規採用、離職者）及び求人登録（幼稚園）の管理、運営、学生向けの合同就職説明会、インターンシップ、中高生向けの職場体験・見学会の案内など各種イベントの告知機能を有している。平成29年11月1日より運用が開始され、現在の登録園数は、2,051園【平成30年3月19日 現在】。今後も継続して機関誌での

登録願、各種会議・研修会での登録願いを行っていくこととする。また平成30年度では、登録率を50%以上になることを目標とし今後も運営していく。

8. 税制に関する事項／私学助成園及び新制度移行園が、公平な税制となるよう、政策委員会、認定子ども園委員会と連携して検討を行った。

9. 学校法人会計基準に関する事項／学校法人会計基準の変更に伴って、主な改正点のポイントや注意事項ならびに幼稚園における改正の影響について、諸会議等について資料提供を行い、周知した。

10. 幼稚園経営防衛マニュアルの作成・配布に関する事項／園児・保護者・教職員の生命及び健康を守ることを目的とし、各加盟園が、社会や保護者に対し安心して選ばれる園となるよう総合的なマニュアルとなるよう、全日私幼連に加盟する園（以下加盟園）における全ての教職員が、火災、災害、事故、事件などのあらゆる危機（保護者対応・マスコミ対応）に対し、的確かつ迅速に対応又は予防するために必要な事項を定めた総合的なマニュアルの作成を検討した。その結果、専門コンサルタントを活用し、「幼稚園経営防衛マニュアル」を作成し、加盟園へ1部、冊子を無料配布した。

11. その他、経営に関する事案／都道府県によってスクールバスの自動車税が免除または減免になる地域があることから、全国での実態を把握する為、各都道府県団体事務局を通じてアンケート調査を実施し、諸会議において報告を行った。

CHAPPY 園児管理シリーズ クラウド対応

園児管理システム



園長



先生

出席の管理
未就園児管理
バスコース管理
承認機能完備

パソコン内ではなく
データセンターでの
管理になるので
セキュリティに
優れています。

個人カリキュラム
検査記録
課外活動一覧
指導計画

パソコンでも
タブレットでも
使えます！



PC



タブレット

園で役立つ機能が満載！ しかも簡単入力で時間削減。
チャイルド社の園児管理システムは、
忙しい先生を応援するためのシステムです。

開発・販売



株式
会社

チャイルド社

コンピュータ部

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-39-11 TEL 03-3333-2345
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>

= 広 報 委 員 会 =

委員長＝四ツ釜雅彦、副委員長＝野上秀子、高尾恵子、委員＝宮澤公大、武藤ちよ子、源 恭子、奈良 誉夫、光岡美恵子、樫村文夫、編集委員＝前田 幹、波岡伸郎、委員会＝7 回開催

【具体的活動内容】

広報委員会の事業は、(公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・調査広報委員会において実施しているため、(公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の平成 29 年度事業報告書に記載。

= 1 0 2 条 園 委 員 会 =

委員長＝溝淵真澄、副委員長＝田中圭子、専門委員＝小山嘉治、福田博多、中尾賢治、永田真理、和田 誠、谷成 悟、委員会＝4 回開催

102 条園委員会の年間事業計画にもとづき、現状の諸問題解決のため委員会等で検討協議を重ねた。また、研修会等を通して情報交換を行い、年間委員会活動のあり方を模索した。

【具体的活動内容】

1. 平成 29 年度・都道府県 102 条園研究会議の企画・実施／都道府県団体の 102 条園代表者を含めた 90 人が集まり、平成 29 年 9 月 28 日(木) 東京・私学会館で開催した。「子ども・子育て支援新制度の現状と課題」と題して、大野雅史氏・文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官が講演。次に、参加者より事前に集めた質問等を大野雅史氏よりご回答いただき情報交換を行った。また、各地域からの現状報告を 102 条園委員や参加者から行い、意見交換をグループディスカッション形式にて行った。

2. 平成 29 年度・102 条園研修会の企画・実施／私立幼稚園を取り巻く状況の変化に対応するため、平成 30 年 2 月 5 日(月) 東京・私学会館で開催し、都道府県団体から 75 人の先生方が参加した。「子ども・子育て支援新制度～2 歳児受入・処遇改善・幼児教育無償化～」と題して、大野雅史氏・文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官が

講演し、その後、子ども・子育て支援新制度について質疑応答を行った。また、各地域からの現状報告を 102 条園委員や参加者から行い、意見交換をグループディスカッション形式にて行った。

3. 平成 29 年分・青色申告決算の手引書等の作成／平成 29 年分も昨年と同様に、「青色申告の決算の手引き」の紙媒体での配布を止め、全日私幼連のホームページに掲載し、青色申告決算の手引書等をダウンロードして活用してもらうようにした。

= 認 定 こ ど も 園 委 員 会 =

委員長＝橋本幸雄、副委員長＝濱川喜巨、森迫建博、委員＝岸 豊、富川 将、栗原充常、長岡龍男、安本照正、専門委員＝角谷正雄、小島 聖、委員会＝4 回開催

【具体的活動内容】

1. 認定こども園に関する情報の収集と発信に関する事項／第 4 回子ども・子育て支援新制度アンケートと題して平成 29 年 3 月～4 月に新制度移行園、新制度への移行検討園を対象にアンケート調査を行った。アンケート結果を全日私幼連ホームページに掲載するとともに、私幼時報 8 月号にも掲載し、各園の状況や新制度への要望等を全国的に共有した。また、保育士修学資金貸付等制度に関するアンケートを実施し、あまねく制度の周知、活用が図れるようアンケート結果を集計、公開した。

2. 子ども・子育て支援新制度に関する事項／第 33 回設置者・園長全国研修大会(大分県・大分市)において、「課題と見直しに向けて」と題して、新制度の課題や各地の現状を踏まえて認定こども園の今後について研究講座を実施した。

3. 幼児教育振興法の制定に向けた活動に関する事項／政策委員会からの意見照会に対して委員会内で検討、意見を集約し提出した。

4. 幼稚園教育を中心とする幼児教育の無償化に関する事項／政策委員会からの意見照会に対して委員会内で検討、意見を集約し提出した。

5. 教育研究委員会と連携した 3 歳未満児への対応に関する事項／2 歳児の受け入れの本格化に向け

て、認定こども園委員会として提言できることや0～2歳児の研修会の開催等について委員会内で協議し、次年度の連携活動に向けて話し合いを行った。

6. 認定こども園及び志向園に向けた研修会(2回)の企画・実施に関する事項／平成29年7月3日(月)に東京・アルカディア市ヶ谷私学会館にて新制度移行志向園を対象に「平成29年度 認定こども園特別研修会～認定こども園制度の理解を深める～」を開催した。文部科学省初等中等教育局幼児教育課長・先崎卓歩氏による「幼稚園・認定こども園を取り巻く現状について」、株式会社船井総合研究所・島崎卓也氏による「私立幼稚園の選択肢」の各講演のあと、「認定こども園委員会委員による移行実例」と題したパネルディスカッションを行った。

平成29年11月21日(火)に東京・アルカディア市ヶ谷私学会館にて新制度移行園を対象に「平成29年度 認定こども園『教育・保育 質の向上』全国研修会～新制度移行園の実状を知る～」を開催した。文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官・大野雅史氏による「子ども・子育て支援新制度の今後の方向性について」、内閣府子ども・子育て本部(認定こども園担当)参事官・安田伸氏による「平成30年度の幼稚園教育要領改訂にともなう認定こども園としての学び」の各講演のあと、「新制度移行にともなう各地区の情報提供」と題したパネルディスカッションを行った。

7. 政策委員会と連携した関係省庁との協議・連絡及び政府予算対策運動に関する事項／政策委員会より意見照会がなされた幼児教育無償化、預かり保育、2歳児の受け入れについて委員会内で検討、意見を集約し提出した。

＝政令指定都市特別委員会＝

委員長＝柿迫重正、副委員長＝國府谷俊盛、オブザーバー＝尾上正史、委員＝前田元照、志賀文岳、勝田寿郎、木元茂、鈴木伸司、植村義弘、水谷豊三、村上順滋、委員会＝2回開催

【具体的活動内容】

1. 政令指定都市特別委員会研修会の企画・実施／平成29年11月15日(水)、ホテルグランドパレス九段下において、約160名の参加を得て、政令指定都市特別委員会研修会が行われた。講座1「幼稚園における2歳児の受け入れと処遇改善(新制度・私学助成)について」(文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官)、講座2「パネルディスカッション・今後における新制度の課題」(文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官、全日私幼連政令指定都市特別委員会委員)などの講演・意見交換を行った。

2. 政令指定都市および中核市の私立幼稚園、認定こども園の抱える課題の調査・研究を行った。

保育力の向上のために

資質向上の取組の証明に

キャリアパスや免許更新のために
研修の記録を大切に残しておきましょう！

監修 公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

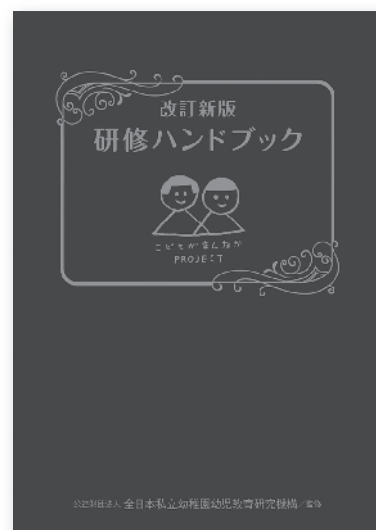
改訂新版 研修ハンドブック

4145301 **648円** (本体 600円)

●B6判
●112ページ

ご用命はお近くの書店、またはワンダー販売会社まで。

株式会社 世界文化社 ワンダー CS 事業本部
TEL03-3262-5128



3. 他委員会等が実施する事業に連携・協力を行った。

＝こどもがまんなかPROJECT企画推進会議＝

平成 29 年度、「こどもの権利」「国際貢献」「母親とこどもの健康」「日本文化・地域文化の継承」「こどもがまんなか生活」「共生」の 6 つの柱を掲げ、現代の子どもたちをめぐる社会環境を考慮しつつ、今後の国の子育て支援策などを踏まえ活動を展開した。また、プロジェクト活動に対して全国より 3,952,203 円をご協力いただきましたことにお礼申しあげ、ご報告いたします。

【具体的活動内容】

1. プロジェクト企画推進事業／（１）冊子「絵本ガイドブック」の発行・配布・普及、及び「22 世紀の日本が輝き続けるために」の普及について：PTA しんぶん 4、5、7 月号 4 面において絵本ガイドブックの紹介を行った。また、9 月 25 日（月）に開催した第 32 回 PTA 全国大会のプログラム背面において、「絵本ガイドブック」と「22 世紀の日本が輝き続けるために」両冊子の紹介を行い、「22 世紀の日本が輝き続けるために」についてはプログラムと共に封入し配布をした。さらに 10 月 16 日、17 日に開催した第 33 回設置者・園長全国研修大会において、「絵本ガイドブック」、「22 世紀の日本が輝き続けるために」両冊子の展示を行い、普及活動に努めた。（２）共生・国際的支援活動（「東日本大震災支援活動」、「国内外の災害緊急支援活動」、「みんなのゆめをつなごうーシードペーパー」の普及、国際貢献活動）：平成 30 年 2 月 6 日に発生した台湾花蓮県の地震に対して義捐金の寄付活動を行った。（３）日本文化、地域文化、各国文化の学び・継承（日本の風土に基づいた催事、食文化の学び、親子のコミュニケーションの活性化、世界とこどもを結ぶ活動）：「世界の幼児教育」をテーマにした動画を作成し、各都道府県団体長に DVD として配布、経営委員会作成の人材確保支援アプリ・幼稚園ナビに掲載した。世界各国の幼児教育について発信することで他国についての理解を深めるとも

に、自国への理解もさらに深めることができた。（４）都道府県の私立幼稚園団体と連携・協力したイベントの開催：平成 30 年 9 月 8 日に行われる立川子育て教育フェアへの参加を予定しており、参加に向けての打合せや詳細を検討した。（５）社会への普及啓発活動（マスメディアへの広報活動、サポーターシップ活動、個人や企業の募金、各幼稚園等の募金）：「世界の幼児教育」「幼稚園教諭の仕事」の 2 本の動画を作成し、経営委員会作成の人材確保支援アプリである幼稚園ナビに掲載した。幼稚園ナビに掲載することで社会に広く幼児教育や幼稚園への就職について興味喚起をすることができ、こどもがまんなかの社会環境づくりに貢献できた。（６）連携・共有（各都道府県の私立幼稚園団体と連携した活動、『私幼時報』『PTA しんぶん』による広報活動）：毎月 PTA しんぶん 4 面にてこどもがまんなか PROJECT の活動内容や刊行物の紹介等をおこない、こどもがまんなか PROJECT の情報の発信拠点となるよう紙面を工夫し広報活動に努めた。（７）こどもと家族の健康（子どもと家族が健康で快適であるために生活づくりを応援する情報発信）：絵本ガイド購入者を対象に絵本プレゼント企画を開催し、8 月末に当選者へ絵本を郵送した。

2. プロジェクト普及啓発事業／（１）こどもがまんなか PROJECT アワードについて：平成 28 年度に開催したこどもがまんなか PROJECT アワードの審査を行い、優秀賞 4 団体、特別賞 2 団体を決定、PTA しんぶん 6 月号と 7 月号にて紹介した。9 月 25 日（月）に開催した第 32 回 PTA 全国大会にて、代表として山口県・小郡幼稚園を表彰した。また、本年度もこどもがまんなか PROJECT アワードを開催した。次年度に審査・表彰を行う予定。（２）協賛・後援団体（企業）の募集について：月 1 回程度、タナベ経営との打合会を通じて協賛を希望する企業や団体を紹介してもらい、毎回検討をしている。（３）各地区並びに各都道府県私幼団体との協力事業についての検討：各都道府県団体からのこどもがまんなか PROJECT 協力金を、各地区、都道府県との協力事業に還元をしている。

一般会計収支計算書
平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位：円)

科 目	予算額A	決算額B	(A－B)	備 考
①事業活動収入の部				
1 基本財産運用収入	◀ 15,000 ▶	◀ 9,437 ▶	◀ 5,563 ▶	
基本財産運用収入	15,000	9,437	5,563	基本積立金・大町内・由田利息
2 特定資産運用収入	◀ 30,000 ▶	◀ 31,010 ▶	△ 1,010 ▶	
特定資産運用収入	30,000	31,010	△ 1,010	国際交流・財政運用・退職給付利息・災害積立利息
3 受取会費収入	◀ 175,000,000 ▶	◀ 173,328,820 ▶	◀ 1,671,180 ▶	
一般会費	175,000,000	173,328,820	1,671,180	(会費1園12,000円＋園児70円×加盟園児数)加盟園数
4 事業収入	◀ 42,000,000 ▶	◀ 42,630,917 ▶	◀ 630,917 ▶	
研修会費	14,000,000	12,340,000	1,660,000	研修会参加費等
保険事務手数料	8,000,000	9,177,334	△ 1,177,334	JK保険
受託事業収入	20,000,000	21,113,583	△ 1,113,583	未収入金・文部科学省委託事業
5 受取補助金等収入	◀ 0 ▶	◀ 0 ▶	◀ 0 ▶	
団体研究助成金	0	0	0	
6 受取寄付金収入	◀ 6,000,000 ▶	◀ 5,400,000 ▶	◀ 600,000 ▶	
寄付金収入	6,000,000	5,400,000	600,000	
7 雑収入	◀ 830,000 ▶	◀ 823,148 ▶	◀ 6,852 ▶	
受取利息	30,000	1,328	28,672	預金利息
その他	800,000	821,820	△ 21,820	推薦料・冊子販売等
8 他会計からの繰入収入	◀ 5,000,000 ▶	◀ 5,000,000 ▶	◀ 0 ▶	
9 財政運用積立預金取崩収入	◀ 16,000,000 ▶	◀ 16,000,000 ▶	◀ 0 ▶	
10 退職給付引当預金取崩収入	◀ 3,578,560 ▶	◀ 3,371,440 ▶	◀ 208,120 ▶	
11 災害積立預金取崩収入	◀ 3,000,000 ▶	◀ 280,000 ▶	◀ 2,720,000 ▶	
事業活動収入計	251,454,560	246,874,772	4,579,788	
②事業活動支出の部				
1 事業費支出	◀ 218,500,000 ▶	◀ 210,666,220 ▶	◀ 7,833,780 ▶	
①総務関係事業	(80,250,000)	(79,252,042)	(997,958)	
総会	7,100,000	7,064,816	35,184	会議費・旅費
理事会	12,000,000	11,952,000	48,000	会議費・旅費
常任理事会	8,500,000	8,010,692	489,308	会議費・旅費
団体会長会	2,500,000	2,400,145	99,855	
監事会	500,000	197,960	302,040	会議費・旅費
総務委員会	3,300,000	3,153,319	146,681	会議費・旅費
諸会議費	13,000,000	12,658,440	341,560	会議費・旅費
全私連	1,100,000	1,000,000	100,000	分担金・全私学連合
国際交流事業	300,000	300,000	0	分担金・会議費
全書連	250,000	230,000	20,000	分担金・全国私立学校審議会連合会
表彰事業	2,800,000	2,787,417	12,583	勤続表彰
出張費	2,000,000	1,827,764	172,236	旅費等
渉外費	1,500,000	1,435,389	64,611	慶弔費等
要覧事業	1,500,000	1,400,000	100,000	作成費
地区活動事業	15,900,000	15,774,000	126,000	各地区に対する活動費
奨励事業	8,000,000	9,060,100	△ 1,060,100	各都道府県に対する奨励金
②政策関係事業	(61,800,000)	(58,951,513)	(2,848,487)	
政策委員会	2,300,000	2,219,619	80,381	会議費・旅費
都道府県政策担当委員会	3,000,000	2,910,658	89,342	会場費・旅費
予算対策費	28,500,000	26,914,161	1,585,839	予算対策活動
政策推進費	28,000,000	26,907,075	1,092,925	政策推進活動
③教育研究関係事業	(100,000)	(100,000)	(0)	
教育研究委員会	100,000	100,000	0	
④経営研究関係事業	(44,000,000)	(43,144,476)	(855,524)	
経営研究委員会	30,000,000	29,324,890	675,110	会議費・旅費・幼稚園ナビ・経営防衛マニュアル等
設置者・園長研修会	10,000,000	9,966,256	33,744	会場費・旅費等
後継者育成研修会	1,000,000	879,537	120,463	
経営実態調査	3,000,000	2,973,793	26,207	調査費
⑤広報関係事業	(3,300,000)	(3,230,400)	(69,600)	
広報委員会	100,000	100,000	0	
会報等発行事業	3,100,000	3,030,400	69,600	
インターネット事業	100,000	100,000	0	
⑥102系関係事業	(2,300,000)	(2,164,890)	(135,110)	
102系園委員会	1,300,000	1,282,132	17,868	会議費・旅費
都道府県代表者会議	1,000,000	882,758	117,242	
⑦認定こども園関係事業	(7,300,000)	(7,092,899)	(207,101)	
認定こども園委員会	2,300,000	2,269,160	30,840	会議費・旅費
認定こども園研修会	5,000,000	4,823,739	176,261	会場費・旅費等
⑧団体教育研究関係事業	(16,450,000)	(16,450,000)	(0)	
地区別教育研究会	16,000,000	16,000,000	0	
全日私幼連負担分	450,000	450,000	0	地区教研大会記念品
⑨災害費関係事業	(3,000,000)	(280,000)	(2,720,000)	
災害費	3,000,000	280,000	2,720,000	
2 管理費支出	◀ 45,378,560 ▶	◀ 42,513,269 ▶	◀ 2,866,291 ▶	
給料	23,000,000	22,686,661	313,339	
退職金	3,579,560	3,579,560	0	退職者2名
福利厚生費	3,700,000	3,047,874	652,126	社会保険等
事務所費	2,000,000	1,911,546	88,454	共益費・水道光熱費等
印刷費	400,000	300,000	100,000	各種印刷費
消耗品費	2,200,000	2,093,649	106,351	
賃借料	2,000,000	1,748,723	251,277	印刷機等リース代
通信費	1,700,000	1,679,002	20,998	各種通信費・発送費
交通費	500,000	454,032	45,968	都内交通費
租税公課費	2,500,000	2,468,306	31,694	法人税・消費税等
支払手数料	300,000	233,874	66,126	振込手数料等
備品費	500,000	500,000	0	P C等
顧問料	2,500,000	1,328,400	1,171,600	弁護士・会計士・社労士
雑費	500,000	481,642	18,358	
3 他会計への繰出支出	◀ 100,000 ▶	◀ 0 ▶	◀ 100,000 ▶	
他会計（こどもP J）へ繰出支出	100,000	0	100,000	
4 特定預金繰入支出	◀ 4,500,000 ▶	◀ 1,246,640 ▶	◀ 3,253,360 ▶	
財政運用積立預金繰入支出	3,000,000	0	3,000,000	
退職給付引当預金繰入支出	1,000,000	746,640	253,360	
災害積立預金繰入支出	500,000	500,000	0	
5 予備費支出	◀ 975,000 ▶	◀ 0 ▶	◀ 975,000 ▶	
事業活動支出計	269,454,560	254,426,129	15,028,431	
当期収支差額	△ 18,000,000	△ 7,551,357	△ 10,448,643	
前期繰越収支差額	43,819,285	43,819,285	0	
次期繰越収支差額	25,819,285	36,267,928	△ 10,448,643	

※予算額は第一次補正予算額

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲について

資金の範囲には現金預金、立替金、未収入金、未払金、預り金及び前受金を含めております。
なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりです。

2. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりであります。

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	44,333,999	16,031,575
立替金	0	0
未収入金	0	21,113,583
合計	44,333,999	37,145,158
未払金	0	0
預り金	514,714	877,230
前受金	0	0
合計	514,714	877,230
次期繰越収支差額	43,819,285	36,267,928

平成 30 年度 認定こども園「教育・保育 質の向上」研修会開催

5月14日、東京・私学会館において、「認定こども園『教育・保育 質の向上』研修会～新制度移行5年間の計画期間終了にむけて移行の準備を整える～」が開かれ、全国から110名の先生方が参加されました。はじめに、村山十五全日私幼連副会長より開会のあいさつがあり、橋本幸雄認定こども園委員会委員長による概要説明の後、講演に入りました。

研修会の概要は下記のとおりです。



講演Ⅰ：「都市部における認定こども園移行実例と今後の課題について」

認定こども園委員会副委員長 濱川喜亘氏

講演Ⅱ：「新制度について～新制度のメリット・デメリット～」

認定こども園委員会委員 安本照正氏

グループワーク：「新制度移行にあたり各々の課題

解決をめざす」

新制度移行に対して参加者各々の関心に沿った事項や懸念事項について共有し、活発な意見交換や知識交換がなされました。

グループワーク終了後の懇親会では、参加者同士の活発な交流が行われ、研修会は終了いたしました。

ポットは毎月 CD-ROM 付き!

チャイルドブックの月刊保育雑誌

イキイキ保育応援マガジン

価格 本体 1,000 円 + 税

好評発売中!

チャイルド本社

保育に役立つ アイデア満載!

行事

遊び

食育

0・1・2 歳児

〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
TEL 03-3813-2141 FAX 03-3814-3392
<http://www.childbook.co.jp/pot/>

「幼稚園ナビ」スタートしました!!

- 設置者の皆様へ幼稚園ナビ導入セットを10月中旬にお届けしております。(A4 封筒: 右図)
※利用アカウント情報が記載されてますので紛失厳禁です!
- 簡易マニュアルに沿って幼稚園情報の登録と求人募集の登録をお願いします。
- 研修申込みや免許管理など職員の方も普段使い出来るサイトです!



幼稚園ナビとは?

幼稚園ナビは、全日本私立幼稚園連合会が開発を進めている教員免許取得者の人材確保を目的とした幼稚園に関する求人・イベント情報・お役立ち情報を掲載した幼稚園に特化した全国版総合情報ナビサイトです。



幼稚園ナビの特徴

イベント・求人情報を
無料掲載!

1

求人情報の
簡単登録機能!

2

職員の研修・免許
管理機能搭載!

3

求人票 PDF の
自動作成機能

4

ハローワーク求人と
自動連携!

5

自園の魅力を学生に
発信!

6

詳しくはWebサイトをご覧ください

<https://navi.youchien.com/>



お問い合わせ

幼稚園ナビ サポート事務局
担当: 岩崎

☎ 093-647-7330
✉ support@navi.youchien.com

平成29年度 事業報告・収支決算等決議

★5・7第14回理事会

5月7日、(公財)全日私幼研究機構の第14回理事会が東京・私学会館で開催され、理事16人が出席しました。田中雅道理事長が議長となり、議事録署名人は、満場一致をもって松尾龍一理事、黒田秀樹理事が選任されました。

○決議案件

1、平成29年度事業報告の承認の件

議長、宮下友美恵研究研修委員長、四ツ釜雅彦調査広報委員長より、平成29年度事業報告について説明がありました。宮下研究研修委員長からは、平成30・31年度教育研究課題と保育者としての資質向上研修俯瞰図、ECEQとECEQコーディネーター、免許状更新講習、幼児教育実践学会、全国研究研修担当者会議、園長・リーダー研修会、研修ハンドブック、3歳未満児への取り組みについて説明がありました。四ツ釜調査広報委員長からは、PTAしんぶん・私幼時報の発行、賛助会員の加入促進、ホームページを活用した広報活動、ようちえん絵本大賞、こどもがまんなかPROJECT推進の広報活動について説明がありました。田中理事長からは、国際交流、各都道府県団体との連携について説明がありました。審議の結果、定款第8条第1項第1号及び第2号の規定に基づき一同に諮ったところ、満場一致をもって決議されました。

2、平成29年度収支決算の承認の件

坂本洋専務理事より平成29年度貸借対照表・正味財産増減計算書及び附属明細書並びに財産目録及び収支計算書について、伊藤夏夫監事より平成29年度監査報告について説明がありました。定款第8条第1項第3号から第6号までの規定に基づき一

同に諮ったところ、満場一致をもって決議されました。

3、定時評議員会開催(5月29日予定)の件

議長より、定時評議員会開催の説明があり、定款第17条第1項の規定に基づき一同に諮ったところ、原案通り満場一致をもって決議されました。

【報告案件】

1. 理事長からの執行報告について

田中理事長より、平成29年度の事業報告ならびに収支状況についての報告がありました。

★5・29第11回評議員会

5月29日、(公財)全日私幼研究機構の第11回評議員会が、東京・私学会館で開催され、評議員16名が出席しました。定款第18条に基づき、議長に北條泰雅評議員を選任、議事録署名人に安齊悦子評議員、関岡貴之評議員を選任し議事に入りました。

【報告案件】

1、平成29年度事業報告の件

田中雅道理事長、宮下友美恵研究研修委員長、四ツ釜雅彦調査広報委員長、平成29年度事業報告について資料をもとに説明がありました。

【決議案件】

1、平成29年度収支決算の件

坂本洋専務理事より、平成29年度貸借対照表・正味財産増減計算書及び附属明細書並びに財産目録及び収支計算書について、伊藤夏夫監事より平成29年度監査報告について資料に基づき説明があり、定款第8条第1項第3号から第6号までの規定に基づき一同に諮ったところ、満場一致をもって決議

されました。

2、理事・監事の選任の件

田中理事長より、理事・監事の選任について説明

があり、定款第22条第1項の規定に基づき一同に諮ったところ、いずれの候補者も満場一致をもって可決・承認されました。

★5・29第15回理事会

東重満氏が理事長に就任 副理事長に坂本洋氏、宮下友美恵氏



5月29日、(公財)全日私幼研究機構の第15回理事会が東京・私学会館で開催され、理事14人が出席しました。議事録署名人は、満場一致をもって小島宮子理事、田中雅道理事が選任されました。

1、理事長、副理事長及び専務理事の選任の件

田中理事より、理事長、副理事長及び専務理事の選任について説明がありました。その後、加藤篤彦理事より理事長、副理事長及び専務理事の候補者について提案があり、審議の結果、定款第22条第2項の規定に基づき一同に諮ったところ、賛成多数にて可決・承認されました。

((公財)全日私幼研究機構専務理事・田中雅道)

公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 役員名簿
理事

- ◎ 東 重満 北海道・札幌国際大学人文学部心理学科特任教授
- 宮下友美恵 静 岡・学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園長
- 坂本 洋 岩 手・学校法人内丸学園理事長
- * 田中 雅道 京 都・学校法人光明学園光明幼稚園長
- 秋田喜代美 東京大学教育学研究科教授
- 安達 譲 大 阪・学校法人ひじり学園理事長
- 岩立 京子 東京学芸大学教育学部総合教育科学系教授
- 内山 昭 和歌山・学校法人内山学園理事長
- 大澤 力 東京家政大学子ども学部子ども支援学科教授
- 大林 晃 北海道・学校法人光輪学園理事長
- 岡 健 大妻女子大学家政学部児童学科教授
- 香川 敬 山 口・学校法人敬陽学園理事長
- 加藤 篤彦 東 京・学校法人武蔵野東学園理事長
- 黒田 秀樹 福 岡・学校法人黒田学園理事長
- 小島 宮子 千 葉・学校法人野田小島学園岩木幼稚園長
- 志内 正一 徳 島・学校法人北島学園理事長
- 杉山 一夫 岐 阜・学校法人杉山第三学園理事長
- 鈴木 寛 東京大学公共政策大学院教授
- 鳥居 泰彦 元日本私立学校振興・共済事業団理事長
- 箕輪 潤子 武蔵野大学教育学部児童教育学科准教授

監事

- 田中 圭子 東 京・成増幼稚園副園長
- 境田 正樹 弁護士

(平成30年5月29日現在)

※ ◎理事長、○副理事長、*専務理事

◇平成 29 年度会合等の概要

(1)理事会:平成 29 年 5 月 9 日第 12 回理事会(15 人出席)〔東京・私学会館〕、平成 30 年 3 月 1 日第 13 回理事会(14 人出席)〔東京・私学会館〕、(2)評議員会:平成 29 年 5 月 24 日第 9 回評議員会(17 人出席)〔東京・私学会館〕、平成 30 年 3 月 27 日第 10 回評議員会(12 人出席)〔東京・私学会館〕、(3)監査会:平成 29 年 4 月 27 日監査会(4 人出席)〔東京・全日私幼研究機構事務局〕

◇委員会活動等一覧

4 月 4 日 3 歳未満児プロジェクト小委員会東京・全日私幼研究機構事務局、研究研修委員会東京・私学会館 4 月 18 日 PTA しんぶん小委員会東京・全日私幼研究機構事務局 4 月 19 日園長・リーダー研修会小委員会福岡・福岡ガーデンパレス 5 月 9 日第 12 回理事会東京・私学会館 5 月 18 日調査広報委員会東京・全日私幼研究機構事務局 5 月 22 日 ECEQ コーディネーター養成小委員会東京・私学会館、評議員選定委員会東京・全日私幼研究機構事務局 5 月 24 日第 9 回評議員会東京・私学会館 5 月 31 日研究研修委員会東京・私学会館 6 月 12 日 ECEQ コーディネーター打合会東京・大妻女子大学 6 月 19 日 ECEQ コーディネーター養成小委員会東京・私学会館 6 月 21 日第 8 回幼児教育実践学会打合会東京・全日私幼研究機構事務局 6 月 26 日研究研修委員会東京・私学会館 6 月 27 日 ECEQ コーディネーター養成講座東京・砂防会館 6 月 28 日 ECEQ コーディネーター養成講座東京・武蔵野東第二幼稚園 7 月 7 日 3 歳未満児プロジェクト小委員会兵庫・やまぼうし保育園 7 月 12 日調査広報委員会東京・私学会館 7 月 23 日免許状更新講習東京・私学会館 7 月 24 日免許状更新講習東京・私学会館 7 月 31 日 ECEQ コーディネーター更新講習北海道・札幌ガーデンパレス 8 月 1 日 ECEQ コーディネーター更新講習福岡・福岡ガーデンパレス 8 月 17 日研究研修委員会北海道・札幌大谷大学 8 月 18 日第 8 回幼児教育実践学会北海道・道新ホール 8 月 19 日第 8 回幼児教育実践学会北海道・札幌大谷大学 8 月 21 日教育研究課題打合会東京・全

日私幼研究機構事務局 9 月 2 日 ECEQ コーディネーター更新講習宮城・多賀城市文化センター 9 月 14 日園長・リーダー研修会打合会東京・大妻女子大学 9 月 15 日 ECEQ コーディネーター更新講習東京・私学会館 9 月 20 日研究研修委員会東京・私学会館研究研修委員会正副委員長会東京・全日私幼研究機構事務局 9 月 22 日調査広報委員会東京・全日私幼研究機構事務局 10 月 4 日評価者育成小委員会東京・私学会館 10 月 11 日キャリアパスの研修履歴構築についての打合会大阪・大阪ガーデンパレス 10 月 26 日文科省委託事業ヒアリング東京・文部科学省 11 月 13 日研究研修委員会東京・私学会館 評価者育成小委員会東京・全日私幼研究機構事務局 11 月 20 日調査広報委員会東京・全日私幼研究機構事務局 11 月 21 日 3 歳未満児プロジェクト小委員会東京・全日私幼研究機構事務局 11 月 22 日園長・リーダー研修会東京・東京大学 11 月 23 日園長・リーダー研修会東京・東京大学 11 月 28 日 ECEQ コーディネーター更新講習大阪・せんりひじり幼稚園 12 月 12 日第 9 回幼児教育実践学会打合会東京・東京家政大学 12 月 14 日 ECEQ コーディネーター養成小委員会東京・私学会館 評価者育成小委員会東京・私学会館 12 月 16 日免許状更新講習東京・私学会館 12 月 17 日免許状更新講習東京・私学会館 1 月 17 日研究研修委員会京都・京都ガーデンパレス 1 月 18 日平成 29 年度全国研究研修担当者会議京都・京都ガーデンパレス 3 歳未満児プロジェクト小委員会京都・京都ガーデンパレス ECEQ コーディネーター養成小委員会京都・京都ガーデンパレス 1 月 19 日平成 29 年度全国研究研修担当者会議京都・京都ガーデンパレス 1 月 24 日調査広報委員会東京・私学会館 1 月 31 日文科省委託事業ヒアリング東京・文部科学省 2 月 5 日 3 歳未満児プロジェクト小委員会大阪・あけぼの幼稚園 2 月 7 日調査広報委員会東京・全日私幼研究機構事務局 2 月 13 日研究研修委員会東京・私学会館 2 月 14 日 ECEQ コーディネーター養成講座Ⅲ東京・私学会館 2 月 27 日全日私幼研究機構・打合会東京・全日私幼研究機構事務局 3 月 5 日調査広報委員会東京・全日私幼研究機構事務局砂場研究打合会京都・京都私学会館 3 月

30 日研修の構築についての打合せ東京・全日私幼
研究機構事務局

1、幼児教育にかかわる者の資質向上に関する事業

(1) 平成30・31年度「教育研究課題」の検討・
作成ならびに研修俯瞰図の周知

平成30・31年度「教育研究課題」の検討・作
成を行った。あわせて「保育者としての資質向上研
修俯瞰図」の内容について周知した。

(2) 幼稚園・認定こども園における学校評価の充
実に向けた事業の企画・検討

昨年度に引き続き、文部科学省委託事業「平成
29年度 幼児期の教育内容等深化・充実調査研
究」について企画・検討し、実施した。今年度より
「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」
の名称をECEQ (Early Childhood Education
Quality System) とし、本システムの更なる普及
を図った。

・ECEQ コーディネーター養成講座・フォローアッ
プ研修の企画・実施

今年度のECEQ コーディネーター養成講座では
全国から約43名が参加した。講座Ⅰ・Ⅱとして平
成29年6月27日に東京・砂防会館において岡健
大妻女子大学教授による講義を実施、また翌日28
日には東京・武蔵野東第二幼稚園で公開保育を実施
した。平成30年2月14日には東京・アルカディ

ア市ヶ谷において養成講座Ⅲを開催した。なお、本
年度より2年間の養成とし、2年間の内に自園に
おいてECEQを実施することを必須要件とした。

また今年度は、平成25年度～平成28年度の公
開保育コーディネーター認定者を対象に、ECEQ
コーディネーター更新講習を北海道、宮城県、東京
都、大阪府、福岡県の5地区にて開催した。223
人が履修し、本講習の履修者には「ECEQ コーディ
ネーター認定証」を授与した。

・評価者の育成

認定こども園の第三者評価に対応して、評価者の育
成を行った。

・公開保育を活用した幼児教育の質向上システム
(ECEQ) の概要を示したリーフレット「ECEQ
PASSPORT」を作成した。平成29年7月に完成し、
同年7月～9月にかけて、加盟園約8,000園に対し
配布した。

(3) 免許状更新講習等についての企画・検討

・文部科学大臣の認定を受け、平成29年度は全国
で、講習（必修27講習、選択必修27講習、選
択120講習）を実施。延べ人数15,862人が受
講した。

・本財団独自事業として、7月23日・24日、12
月16・17日の2回、東京都千代田区において
免許状更新講習必修講習および選択必修講習を開
催した。

(株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田2-11-8
幼児教育事業部

お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-833-415

園ぴゅう太のメールサービス



らくらくメール

園から保護者へらくらくメール送信！
組別・個別送信、既読確認もできます。
サーバー二重化で、いざという時も安
心です。

スマホ

らくらくバスメール

スマートフォンでバスメールを送信！
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。
タップするだけでメール送信できます。

ぜ～んぶ学研に おまかせ!!

心機一転！
リニューアル

オリジナル！
キャラクター
ロゴ

Flashで
動画！

らくらくホームページ

目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新
もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にも
システム併用でご対応いたします。

・教育職員免許法施行規則等の一部改正により平成28年4月より新たに追加された「選択必修領域」について、カリキュラムの検討を行い都道府県ならびに受講者への周知を行った。

(4)「幼児教育実践学会」の実施

「第8回幼児教育実践学会」を平成29年8月18日・19日に北海道札幌市にて開催した。1日目を道新ホール、2日目を札幌大谷大学にて実施し、全国から約700名の参加を得た。基調講演は、島根大学大学院教授・肥後功一氏を講師に迎え、「これからの幼児教育に求められていることー幼稚園教育要領・学習指導要領の改訂を踏まえてー」をテーマに行われた。続く全体研修では、「保育を語り、保育を伝えるーポートフォリオなど写真を使うことの可能性を探るー」をテーマに、保育のデザイン研究所研究員・相馬靖明氏を講師に迎え、また事例提供者として北海道・白石幼稚園より小野寺由紀氏・谷口綾乃氏、神奈川県・西鎌倉幼稚園より佐藤典子氏、京都府・泉山幼稚園より荻野和美氏が登壇し、パネルディスカッションを行った。2日目は、午前の口頭発表Ⅰ、午後の口頭発表Ⅱそれぞれ11発表が行われ、また昼食の時間と並行して、39のポスター発表が行われた。

(5) 全国研究研修の推進

①全国研究研修担当者会議の開催

1月18日・19日の両日、京都府京都市・京都ガーデンパレスにおいて、「平成29年度全国研究研修担当者会議」を開催し、全国から都道府県研究研修担当者等あわせて約114名の先生方が出席した。1日目は「研究研修委員会の取り組みについて」を（公財）全日私幼研究機構の宮下友美恵研究研修委員長から報告を行った。続いて「幼児教育の質の評価」をテーマに東京学芸大学教授・岩立京子氏が講演を行った。続いて、「砂場研究について」をテーマに武蔵野大学准教授・箕輪潤子氏、大阪教育大学准教授・中橋美穂氏、全日私幼研究機構研究研修委員会縦断研究チーム座長・東 重満氏、全日私幼研究機構研究研修委員会縦断研究チーム平林 祥氏が登壇し、講演・グループワークを行った。

2日目は「幼児教育の質向上をめざした取り組み

について」をテーマに、パネラーに、（公財）全日私幼研究機構の加藤篤彦研究研修副委員長、川原恒太郎研究研修副委員長、安達譲研究研修委員会専門委員を迎え、また宮下友美恵研究研修委員長をコーディネーターにパネルディスカッションが行われた。

②地区教育研修大会の実施

北海道地区＝7月31日・8月1日（北海道・札幌市）、札幌ブロック：9月29日・30日（札幌市）、道央ブロック：8月26日、9月30日、10月6日（小樽市・北広島市・岩見沢市）、道南ブロック：8月5日、9月9日、10月7日（室蘭市・苫小牧市・函館市）、道東ブロック：9月30日（網走市）道北ブロック：10月7日（旭川市）、東北地区＝9月1日・2日（宮城県・多賀城市）、関東地区・神奈川地区＝8月8日・9日（新潟県・新潟市）、東京地区＝7月24日・25日（東京都・千代田区）、東海・北陸地区＝7月27日・28日（福井県・福井市）、近畿地区・大阪地区＝7月28日・29日（京都府・京都市）、中国地区＝8月21日・22日（島根県・松江市）、四国地区＝8月3日・4日（愛媛県・今治市）、九州地区＝7月31日・8月1日（福岡県・福岡市）

③地方の教育研修体制のサポート

各地域における教育研修体制のサポートについて検討を行い、各都道府県における研修会に対する助成事業を行った。

④園長・リーダー研修の実施

全国の幼稚園・認定こども園の園長等を対象とした研修について、教育のリーダーとして必要な研修内容等について検討を行い、「教育・保育を創る」「マネジメントを構築する」「同僚性を高め保護者・地域・社会・行政と連携する」の3つの課題を中心にカリキュラム案を作成し、11月22日・23日の2日間東京大学・福武ホールラーニングシアターにて「平成29年度園長・リーダー研修会」を開催した。全国から約130名の参加者を得た。

1日目は、まず（公財）全日私幼研究機構安家周一副理事長が「園長・リーダーの学びとは」をテーマに講義を行った。次に、東京大学大学院教授・秋田喜代美氏が「教育課程の編成と見直しについて：

幼稚園教育要領の改訂をふまえて」をテーマに講義を行った。続いて、「連携するための園の組織づくり」をテーマに、大妻女子大学教授・岡健氏が講義を行った。

2 日目は、まず山梨大学大学院教授・加藤繁美氏を迎え、「質の高い保育を生みだすリーダーシップ①②」をテーマに講義・グループワークを行った。続いて、龍谷大学教授・白石正久氏を講師に、「発達の道すじと指導の視点」をテーマに講義を行った。2 日間の最後として文部科学省初等中等教育局幼児教育課子育て支援指導官・本田史子氏を迎え「日本の幼児教育の現在と未来」をテーマに講演を行った。

⑤ 3 歳未満児の発達と保育についての研修会の企画・実施

- ・各地区（各県）において乳児期の育ちを支える研修の充実や保育者の育成に取り組んだ。また、3 歳未満児の研修を全国で進めるべき、テキストの作成について検討を行った。

⑥ 幼稚園教育要領の改訂に関する研修の推進

- ・幼稚園教育要領の改訂に関する研修を企画・実施するとともに、各地区（各県）で開催する研修会をサポートした。

（6）「研修ハンドブック」の改訂及び活用周知

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂や幼稚園・認定こども園における学校評価やキャリアパス等に伴い「研修ハンドブック」

の改訂を行った。平成 30 年 2 月に「改訂新版研修ハンドブック」を発刊し、周知を行った。また、研修スタンプ発行のルールについて検討した。

（7）優秀教員表彰者制度の実施

本財団「優秀教員表彰者」制度の要項等に従い表彰者を 8 人選定し、第 8 回幼児教育実践学会（8 月 18 日）において表彰式を行った。

2、幼児教育に関する調査及び研究

（1）乳幼児の育ちを支える家庭教育と地域の教育の支援事業の研究

家庭や地域の教育機能が低下している現状を踏まえ、幼稚園が行う家庭や地域への教育機能支援についての研究を行った。

（2）乳幼児期の教育環境のあり方の研究

幼稚園の環境として砂場に焦点を当て、遊びの中での行動や人間関係、言葉の発達などについて調査し、子どもの育ちの視覚化を行った。第 8 回幼児教育実践学会では口頭発表として「砂遊び研究の中間報告」を行った。

（3）幼児教育実践事例研究

各都道府県、各地区等で研究されている実践事例について、幼児教育実践学会において口頭発表ならびにポスター発表で研究発表を行い、その内容を私幼時報に掲載した。

（4）幼稚園におけるカリキュラム・マネジメント

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とキャリア

毎月 2 日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

の研究

幼稚園において社会に開かれた教育課程を編成し、実施・評価・改善をしていく、カリキュラム・マネジメントについての研究を行った。

(5) 5歳児が幼稚園にいることの意味を考える

従来からの継続課題「5歳児が幼稚園にいることの意味を考える」についての実践研究にあたっては、幼稚園教育要領の改訂を踏まえ、幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿を捉えながら、幼児教育の在り方や小学校教育との接続について建言できる研究としても取り組んだ。

(6) 幼稚園におけるインクルーシブ教育システムの充実に関する調査研究

「障害者差別解消法」の施行にともない、関係機関と協力して調査研究をすすめ、インクルーシブ教育にむけての啓発や個別の合理的配慮の充実など保育の質の向上に努めた。なお、第8回幼児教育実践学会では財団指定テーマとして「インクルーシブ教育」についての発表を募り、インクルーシブ教育に関する発表を行った。

(7) 学校評価

ECEQを推進することで、私立幼稚園における学校評価（自己評価及び学校関係者評価）の充実を図った。また、認定こども園における公開保育を活用した第三者評価を試行し、平成29年度は、千葉県、高知県、福岡県、宮崎県の認定こども園4園において実施した。

3、家庭・地域における幼児期の教育力向上への支援と広報活動

(1) P T A しんぶんの発行

「子どものしあわせを願う親と先生のひろば」をスローガンに、全日私幼連P T A しんぶんを年11回発行した。4月号を全園児に配布、また、0～2歳児に関する連載をスタートさせるなど、より多くの方に購読いただけるよう、内容の充実に努めた。また、『PTA しんぶん』のロゴデザインを平成29年6月号より変更し、平成29年10月号からは1面掲載のキャッチコピーを『子どものしあわせを願う親と先生のひろば』から『人生のスタートに良質

な教育を』へ変更するなど読みやすさを追求し紙面のリニューアル作業を進めた。

さらに今年度より広報委員会での取材、執筆活動も行った。平成29年9月号1面の私の子育てにおいては、7月19日(水)に北斗晶氏に取材を行い、原稿を執筆した。同様に11月号には9月21日(木)に取材、執筆を行ったお笑い芸人・はなわ氏の記事を掲載、平成30年3月号には2月13日(火)に取材、執筆を行ったテレビ朝日アナウンサー・堂真理子氏の記事を掲載した。

(2) 賛助会員の加入促進

4月号の全園児配布や内容の充実化を通じ、各都道府県団体で50%の加入率を目標とし賛助会員の加入促進に努めた。

(3) 私幼時報の発行

全国の私立幼稚園設置者・園長を対象に本財団の機関誌『私幼時報』を年12回発行した。各種会議・研修内容の報告をはじめ、政府予算概要、地区教研大会概要、幼児教育実践学会での口頭発表・ポスター発表概要、免許状更新講習一覧表、発達保育実践政策学センター公開シンポジウム概要等の掲載、情報提供を行った。

(4) ホームページを活用した広報活動

ホームページを活用して、幼児教育に携わる者、子育て中の保護者、設置者・園長に向けて、子育ての大切さや尊さを訴えていくとともに、幼児教育に関わる必要な情報提供のさらなる充実を図った。

(5) 調査の実施

幼稚園・認定こども園の人材確保状況についての調査活動を検討。経営委員会との連携も含め、次年度に申し送りとした。

(6) 幼児教育の発展に寄与する絵本の顕彰

第9回ようちえん絵本大賞は、「新しい絵本をみつけよう」をテーマに、いろいろなジャンルから、“子どもに読み聞かせたい絵本”、“お父さん・お母さんに読んでほしい絵本”を選考の基準として、過去おおむね5年以内に出版された絵本の中から調査広報委員会が選考を行った。その結果、特別賞4作品を含む14冊の絵本が第9回ようちえん絵本大賞に選ばれた。【(公財)全日私幼研究機構理事長

賞】あかいふうせん（出版ワークス）／【調査広報委員長賞】くいしんぼうのクジラ（あかね書房）、ねえ、してる？（岩崎書店）／【こどもがまんなか PROJECT 賞】やまじろうとはりきち（佼成出版社）／おかあさんはね（マイクロマガジン社）、カレーライス（福音館書店）、やきそばばんばん（あかね書房）、フネフネさんのいちにちきょうはパーティーのひ（福音館書店）、バナナじけん（BL 出版）、でんしゃがきた（偕成社）、パパはわるものチャンピオン（岩崎書店）、やきざかなの のろい（ポプラ社）、きみのいたばしょ（NORTH VILLAGE）、パング おやこたいそう（講談社）

（7）こどもがまんなか PROJECT 推進のための広報活動

P T A しんぶん、私幼時報、ホームページ等を通じて、こどもがまんなか PROJECT の活動内容の報告やイベント・発刊物告知を行い、こどもがまんなか PROJECT 推進のための広報活動を行った。

4、幼児教育における国際交流等に関する事業

平成 30 年 1 月 28 日に開催された（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）共催シンポジウム「東アジアの保育・幼児教育改革～現職研修と評価を通じた保育者の専門性向上～」に共催し、役員等を派遣した。また、昨年度行われた東京大学発達保育実

践政策学センター公開シンポジウム「乳児期からの縦断研究：幸せな人生のために何が必要か」の報告を私幼時報に毎月掲載した。

5、本財団の組織・運営に関する事項

（1）各都道府県団体との連携強化

附属明細書

平成 29 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

地域で愛される園になるためのサポートブック

園のリーダーのために

保育ナビ

管理職向け月刊誌

定価：本体価格926円＋税
B5判 72ページ

2018年7月号の主な内容

●特集1 保護者も園というチームの一員です！

園の保育の質を高めるために欠かせない「チーム力の向上」。本特集では“保護者も含めて園という「チーム」である”というコンセプトで、保護者との連携によりチーム力を上げ、園の保育を充実させている事例をご紹介します。

●特集2 保育の新と真を探る 子どもの表現意欲を育む 物語性のある造形活動 榎英子先生（淑徳大学）と無藤隆先生（白梅学園大学大学院）が造形活動が活発な園を訪問。表現意欲を育むための子どもの造形活動について語り合いました。

●子どもの可能性を伸ばすスポーツ共育 スポーツを行う際、私たちは無意識に脳のあらゆる領域を使っています。そのため幼少期こそスポーツで脳を鍛えることが有効なのです。



ISBN978-4-577-81436-9 707

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <http://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育事業部営業本部まで

キンダーブックの **フレーベル館**

(公財) 全日私幼稚園教育研究機構
正味財産増減計算書

平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	7,503	4,135	3,368
特定資産運用益	2,556	5,859	△ 3,303
会費	71,186,950	72,645,150	△ 1,458,200
普通会员会費	3,030,400	3,000,000	30,400
賛助会員会費	68,156,550	69,645,150	△ 1,488,600
事業収益	108,372,324	91,650,151	16,722,173
全国研究研修担当者会議収益	4,540,000	3,904,000	636,000
教員免許更新受講料収益	97,484,827	81,805,156	15,679,671
調査研究事業収益	2,748,497	3,539,995	△ 791,498
幼児教育研究実践学会収益	3,599,000	2,401,000	1,198,000
補助金等	44,280,000	60,280,000	△ 16,000,000
日宝協助成金等	44,280,000	44,280,000	0
地区別研修会助成金	0	16,000,000	△ 16,000,000
寄付金	0	0	0
雑収益	6,993,376	6,237,730	755,646
受取利息	4,331	4,392	△ 61
その他収益	6,989,045	6,233,338	755,707
事業活動収入計	230,842,709	230,823,025	19,684
(2) 経常費用			
事業費	216,749,271	213,902,957	2,846,314
給料手当	19,716,298	22,977,115	△ 3,260,817
臨時雇賃金	3,595,279	4,022,561	△ 427,282
退職給付費	1,629,280	1,016,480	612,800
福利厚生費	3,082,304	3,303,352	△ 221,048
会議費	30,808,662	35,441,565	△ 4,632,903
旅費交通費	29,157,924	26,571,251	2,586,673
通信運搬費	51,290,034	46,322,280	4,967,754
消耗品費	3,259,318	1,646,690	1,612,628
減価償却費	23,062	0	23,062
印刷製本費	45,521,304	50,014,327	△ 4,493,023
貸借料	5,224,700	1,307,767	3,916,933
諸謝金	19,620,039	17,238,016	2,382,023
支払手数料	122,947	116,230	6,717
光熱水料費	30,701	0	30,701
支払寄付金	1,200,000	1,200,000	0
雑費	2,467,419	2,725,323	△ 257,904
管理費	9,014,453	10,589,931	△ 1,575,478
給料手当	4,929,074	5,744,278	△ 815,204
退職給付費	407,320	254,120	153,200
福利厚生費	770,576	825,837	△ 55,261
会議費	367,810	756,385	△ 388,575
旅費交通費	1,791,158	2,246,128	△ 454,970
通信運搬費	120,217	94,530	25,687
消耗品費	161,188	73,942	87,246
印刷製本費	92,467	34,315	58,152
貸借料	0	12,208	△ 12,208
諸謝金	180,420	304,041	△ 123,621
支払手数料	18,101	20,660	△ 2,559
雑費	176,122	223,487	△ 47,365
経常費用計	225,763,724	224,492,888	1,270,836
当期経常増減額	5,078,985	6,330,137	△ 1,251,152
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	5,078,985	6,330,137	△ 1,251,152
一般正味財産期首残高	71,210,049	64,879,912	6,330,137
一般正味財産期末残高	76,289,034	71,210,049	5,078,985
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	100,000,000	100,000,000	0
指定正味財産期末残高	100,000,000	100,000,000	0
III 正味財産期末残高	176,289,034	171,210,049	5,078,985

(公財) 全日私幼稚園教育研究機構
貸借対照表
平成30年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
流動資産			
現金・預金	78,241,616	71,789,497	6,452,119
未収入金	1,848,497	3,091,185	△ 1,242,688
流動資産合計	80,090,113	74,880,682	5,209,431
固定資産			
基本財産			
基本財産引当資産	100,000,000	100,000,000	0
基本財産合計	100,000,000	100,000,000	0
特定資産			
退職給付引当資産	13,527,400	11,490,800	2,036,600
特定資産合計	13,527,400	11,490,800	2,036,600
その他固定資産			
什器備品	198,338	0	198,338
保証金	1,140,000	0	1,140,000
その他固定資産合計	1,338,338	0	1,338,338
固定資産合計	114,865,738	111,490,800	3,374,938
資産合計	194,955,851	186,371,482	8,584,369
II 負債の部			
流動負債			
未払金	849,970	0	849,970
前受金	3,875,500	3,412,500	463,000
預り金	413,947	258,133	155,814
流動負債合計	5,139,417	3,670,633	1,468,784
固定負債			
退職給付引当金	13,527,400	11,490,800	2,036,600
固定負債合計	13,527,400	11,490,800	2,036,600
負債合計	18,666,817	15,161,433	3,505,384
III 正味財産の部			
指定正味財産			
寄付金	100,000,000	100,000,000	0
指定正味財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
一般正味財産	76,289,034	71,210,049	5,078,985
正味財産合計	176,289,034	171,210,049	5,078,985
負債及び正味財産合計	194,955,851	186,371,482	8,584,369

保育実践に生かすドキュメンテーション

ードキュメンテーション作成の試みから見てきたものー

山口舞・小谷佳苗・日下部弘美（日本女子大学附属豊明幼稚園）・請川滋大（日本女子大学）

【研究の目的と方法】（請川）

2016年度から、附属豊明幼稚園の園内研修会に年に数度お伺いしている。その中で写真を効果的に活かしたドキュメンテーション（教育的ドキュメンテーション）の取り組みを紹介したところ、2016年当時、年中組を担当していた3人の先生方（今回の発表者）がさっそく取り組みを始めてくれることとなった。作成し始めた頃は写真が小さかったり、全体の中で文字が多かったりと見る側にとっては分かりづらい側面もあったのだが、短い期間でずいぶん工夫がなされ、現在は子どもたちや保護者も意識的に見るようなドキュメンテーションに仕上がっている。

今回の発表では、年長の担任となった3人の先生方の取り組みを振り返りながら、ドキュメンテーション作成に当たってどのような点が困難だったのか、それらをどう工夫してきたのかについて報告したい。また、ドキュメンテーションは作成することに目的があるのではなく、それを通してどのように保育が変わっていったのかが重要であるため、ドキュメンテーション作成とその掲示を通して変化してきた子どもの姿についても触れていきたい。園児は保育者が作ったドキュメンテーションに目をとめるようになり、自分たちでもドキュメンテーションを作成するようになった。その背景には、「自分たちの生活を意識して見る」ということがあるように感じる。そのような子どもたちの様子もお示しできればと考えている。

【日本女子大学附属豊明幼稚園について】（日下部）

本園は、「遊びを中心とした保育」「感性をはぐくむ保育」を創立以来受け継いできている。子ども達は木々や虫など自然豊かな環境の下、自らの興味の赴くまま様々な遊びを楽しんでいる。

私達の学年では、昨年度から日々の記録としてドキュメンテーションを作成し、保護者向けに学期に数回これらを掲示している。また、子ども達がお互いの遊びを見合えることが困難であることを鑑み、子ども用に編集し、情報発信を始めた。

【ドキュメンテーションを始めて

ぶつかった壁】（小谷）

写真を活用してドキュメンテーションを作成し、日々の記録をとることにした一人担任一年目。学年で記録を見合い話し合う中で、他の教員からの指摘から自らの様々な課題が見えてきた。

＜ぶつかった壁＞

まずは、一人ひとりがどこで何をして遊んでいるか全体を把握すべく、手当たり次第撮影していたた

め、写真の量が大量になってしまった。保育後写真を見ながら記録をとろうとするが、大量の写真を取捨選択できず相当量の時間を要していた。写真を撮ることばかりに気を取られ、子ども達が何を経験していたのか個々の姿が追えず、実際の様子がよく理解できていなかった。さらに、記録をとるにあたっては、どこでどんな遊びが展開されたかのみの単なる記録になっていた。子どもの言葉、結果、感想で終わってしまい、保育者のねらいや意図の記述が不十分のため、遊びが続いていかないこともあった。また、何を伝えたいのかポイントが絞れず、文字数が多くなり見難い記録となっていた。

以上のような壁を克服すべく、まずは初心に戻り、子ども達が“経験していることは何か”、そこに焦点を絞り、写真の撮影も控え、じっくり遊びに関わることにした。時には他クラスの担任に他の遊びの子ども達を見てもらいながら、目の前の子どもと向き合うことに専念していった。

＜じっくり関わることで見えてきたこと＞

一人ひとりがつまづいている課題が見えてきた。普段自分から遊びを始めて一見遊んでいるように見えていた子どもが、実は特定の友だちがいないと遊びが見つけられず行き詰っていることにも気付いた。

記録に残して伝えたい場面が見えてくると次第に写真を撮る回数が抑えられ、写真を選ぶ時間も短縮されていった。そこで、“どんな経験が必要か”、そのために“必要な環境構成は何か”という視点で記録を取り、保育者としての意図やねらいも書くよう心掛けていった。さらにその場面でのキーワードを括り出し、焦点を絞って書いていくと、伝えたいことが自分の中でも整理され、記録を見返した時に見やすく理解しやすいようになってきた。

【保育実践に生かすドキュメンテーションを

目指して】（山口）

ドキュメンテーションで記録を続けていく中で、子どもの成長や思いに気付くきっかけとなり、次の保育に繋げていく楽しさを感じられるようになってきたところである。

今年度、5歳児クラス24名の担任をしている。4歳児より持ち上がりのクラスであり、昨年度は紙粘土でのカップケーキ屋さんやパン屋さんの遊びを気に入って行っていた。また学年末には年長児の卒園プレゼントとして紙粘土でペン立てを作った。紙粘土に繰り返し触れる機会のあった一年間であった。

5歳児進級当初、4歳児でしていた遊びを繰り返す姿が見られた。その一つに紙粘土のカップケーキ屋さんも挙げられた。しかし色々な素材に触れなが

ら経験が広がっていくことを願い、あえて子ども達に紙粘土を提供しないこととした。そこで自分達で粘土が作れないだろうかと考え始めた子ども達。その展開をドキュメンテーションにまとめていくことで、どのように保育実践に生かされていったかを、事例を通して紹介していく。

＜事例 粘土作りをしよう（5歳児クラス4月）＞

保育者に「紙粘土はない」と言われたA児は、イチゴを作るにあたり赤い和紙と花紙を水に浸し始める。「これで粘土みたいになると思う」水に浸したまま一日置いてみるが、粘土のようにはならなかった。粘土みたいにするにはどうすればよいのか家で調べてきたA児は「小麦粉が必要！」と言う。園にあった小麦粉を出すと、徐々に興味をもつ子どもが増え始め、小麦粉粘土作りが始まった。しかし分量がわからずに作っているのでベチャベチャ。他のものを混ぜ始めたり、冷凍庫や冷蔵庫に入れてみたり、粘土らしい硬さに近づけようと数日間試行錯誤するものの、なかなかうまくいかず諦め始める。

そこへ「水が多すぎるんだよ！」と気づいたB児は小麦粉と水のみで粘土を完成させて見せた。それをきっかけに他の子ども達も再び挑戦。次々に粘土が出来上がる。ようやくできた粘土が嬉しくて、丸めたりこねたりしながら何日も大切に持っている子ども達。しかし徐々に「なんか変な臭いがする…」ということに気づき始める。

＜ドキュメンテーションの効果＞

・保育者の記録として

小麦粉粘土が腐ることに気づいた子ども達は、腐らない土での粘土作りに着目する。興味が広がり始めた子どもの動きを逃さずにキャッチできたのはドキュメンテーションによる記録の効果と言える。粘土作りの展開と子ども達の気づきを日々追いながらドキュメンテーションを作成していくと、その出来事や自分の思考が整理されていく。まとめながら可視化することで、その活動の今後の可能性や次の子どもの動きなどが想起されていく。その上で、明日の援助が自分の中で意識化される。また複数の展開を予想することで、きっかけがあった際に子どもの声や動きを逃さずに拾うことができる。一見、見落としがちな子ども達の遊びの連続性が見え始めてくる。

・保育者間の情報共有

ドキュメンテーションを学年で共有することにより、担任だけでは気づかなかったことに気づいたり、その遊びを支えるよう助け合ったりすることができる。環境構成や教材準備などをクラス単位ではなく、学年単位で総合的に整えていくことができる。担任だけの思考に留めずに、子どもの動きを多角的に予想することで、長期的な保育計画にも繋がっていく。クラス間での刺激から子ども達の経験が広がるきっかけも増えていく。

・子ども達への発信

自分がしていた楽しかった遊びが掲示されていると、それを見て喜び、再び遊びを繰り返す姿が見ら

れる。また小麦粉粘土の事例においてはその他の効果も感じられた。一つ目は自分達でもドキュメンテーションを作ることができることである。子ども達が工夫し考えて作り上げた小麦粉粘土の作り方に関する掲示を、保育者ではなく自分達で作成してみてもいいかと思い、提案した。すると自分達で写真を選び、保育者の手を借りずともその時の展開を書き、心情を吹き出しで書き始めた。二つ目は、遊びに入ることをためらっていた子どもが入るきっかけとなったことである。保育者が作成した小麦粉粘土に関するドキュメンテーションの掲示は、中心となっており行っている子どもは毎日小麦粉粘土に夢中であり見ていない印象があった。一方で、興味はあるがやることをためらっていた子どもはよく見ていた。その子どもは様子を見て、日をおいて参加していた。

【その後の展開と課題】(山口)

・色々な粘土に触れて

小麦粉粘土から始まった粘土作りは、その後土粘土、新聞紙粘土へと広がっていく。徐々に粘土を作るだけでなく、レストランごっこなどで作ったものを使って遊ぶ姿も見られるようになっていった。また色々な粘土に触れることでそれぞれの粘土の特性にも気づき始めた。学期末には年長組だけの特別な行事、夏の保育に粘土コーナーを設けることとした。子ども達と何をするか相談した結果、粘土で自分の好きな作品を一つ作り、粘土博物館を行うこととなった。夏の保育は保護者のご協力も得ながら行っていく。ドキュメンテーションは保育記録に生かすことを目的に作成してきたが、保護者に対しても時折発信してきた。その効果もあり、保護者もこれまでの粘土遊びの流れを汲み色々な粘土に挑戦しながら粘土博物館を盛り上げていった。

・それぞれの興味

一学期を通して行った粘土であるが、好奇心をもって次々と探求していく子どもがいる一方で、なかなか興味を示さない子どももいる。保育者にとって盛り上がっていると感じる遊びには、一人でも多くの子どもに経験してほしいと願ってしまう。しかしすべての子どもが経験するべきなのかという葛藤もある。一人ひとりの子どもにとって盛り上がっている遊びは違い、興味をもち始めるタイミングも違う。その中で育つ姿も見逃さずに、それぞれの姿を焦らずに認めていくことが必要である。ドキュメンテーションによる記録としての効果的な部分を生かすことで、長期的な視野をもちながら今後も日々の保育実践につなげていけるよう努めていきたい。

幼稚園での子どもの育ちをどう記録し、見取り、そして伝えるか
 一星の子幼稚園での取り組みー

○上村毅（星の子幼稚園）・小泉柚香（星の子幼稚園）
吉川和幸（帝京科学大学）

I. はじめに（上村毅）

星の子幼稚園では、遊びを通しての子どもの育ちを重視し、日々の保育実践を行っています。遊びの中での、子どもの育ちに対する保育者の見取りを深め、それを保護者や保育者間で共有していくために、発達障がいの子どもの対象とした「学びの物語」による記録や、学級全体の子どもを対象とした携帯アプリを用いた記録と共有などに、これまで取り組んできました。今回の発表を通して、これまでの幼稚園での取り組みについて報告するとともに、記録による子ども理解の在り方、そして記録を介した保護者との子ども理解の共有の方法について考えたいと思います。

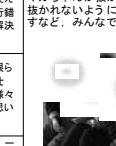
II. 記録に関するこれまでの取り組み（上村毅）

1. 障がいのある子どもの「学びの物語」作成

2013年度から、吉川和幸先生（当時、札幌大谷大学短期大学部）と、幼稚園に在籍する発達障がいのある子どもの保育記録の様式の検討に取り組みました。実践を通して、ニュージーランドで行われている「学びの物語」に取り組むことによって、生活の中で特定のことが「できる/できない」を越えた、その子の遊びの充実を考えることができるようになりました。現在では、学びの物語に基づく記録を、支援の必要な子どもたち全員に作成しています。

2. 保護者へのおたよりを手書きから PC での作成へ 記録や日案のクラウド化

手書きには手書きのもつあたたかさ、良さがありますが、デジカメで撮った写真の貼付、加工のしやすさ、保存などを考え、おたよりを全てPCで作成するようにしました。また、保育の記録や日案をクラウド化し、全ての教員のPCから各自で閲覧できるようにしました。クラウド化することにより、それぞれのクラスの保育計画がweb上で分かるようになるとともに、内容を共通理解した上での保育者同士の対話が生まれています。

タイトル「嬉し恥ずかし だいこんぬき」 子ども名前 ユウタ君 日付: 1月21日(火) 場面: クラスのお友達と午後の自由遊びでだいこんぬきをする 作成者: アリリ先生		
子どもを見ていく視点	具体的にどういうことか?	学びの物語
興味・関心をもつ	これまでによく知っているものに、より親しんだり、探求・知的に見るもの、初めての経験することに関するものを示すこと	お昼ご飯を食べたあと、サヤちゃん君が保育者に「ユウタ君どこ？」と聞かに来る。保育者がアリリ先生に「ユウちゃん、サヤちゃん、サヤちゃん、サヤちゃん、ミユちゃんの人でユウタ君を呼びにアトリエに行こう。」
夢中になっている	自分の置かれた環境や周りの人々に安心感や心地よさを抱かせるが、活動に継続して取り組むこと	「サヤちゃん君がユウタだーいこんぬきしよう！」と言ったが、ユウタ君は「嫌だ！」と言う。ユウタ君を引っ張り、アトリエからホールに連れ出す。ユウタ君は「やだやだ～」と言って抵抗している。
チャレンジしている	問題にぶつかつた時、方法を考えたり、環境を変えようとしていたり、試行錯誤を繰り返しながら、解決のために努力すること	ル出ると、壁に背をつけて座る。ユウタ君も壁をくぐること、真ん中に座り、両側のお友達と膝を組む。めづくんが近づくと、「ラカー」と言い足元を引っかく。周りのサヤちゃんさんぶでなければ片足はあたる姿も見られる。サヤちゃん君が抜かれそうになると、隙くつと力を入れて抜かれようとしている。その後も抜く人を2人に増やすなど、みんなで相談をでたてにみんなききとていた。
気持ちよく表現している	話し言葉による表現に限らず、絵や制作物、歌、俳句、文字、数字などの様々な方法によって自分の思いを表現すること	
自分の役割を果たしている	誰かの求めに応じたり、一緒に遊んで活動に取り組んだり、手助けをしたりするなど、仲間やクラスの人々と、自分の役割を果たすこと	
		
振り返り		次の手立て
最初にお友達を呼びに来てくれたのは、「嫌だ～！」と言って抵抗していたが、表情はニコニコしていた。嫌いだと言ながらも黙って座らうにしていた。お友事はあはれもアトリエで遊んでいたもので、午後の自由遊びの時間はアトリエで遊ぶ時間！ユウタ君自身で決めていたのだから、「嫌だ」と言ったのも仕方のない。だが、今回はお友達を呼びに来たことには嬉しく思っているようだ。ホールに出ると、ユウタ君もだいこんぬきのルールを理解し、お友達とやっていた姿が呼ばれた。アトリエで個別支援をしているお友達と遊んでいたのとユウタ君とは思い、大いしく発言する姿は本当に見られなかった。クラスのお友達と話し、遊ぶ予定はアトリエではなくホールで、クラスのお友達と遊ぶ時間をもとで遊んでいるという思いが湧いた。		アトリエでの個別支援の後にはホールやホールに出るような声を掛けて、クラスのお友達と遊ぶ時間が増えるようにする。今回はサヤちゃん君を中心にユウタ君を誘いに来たので、保育者からサヤちゃん君を誘ってみようという声を掛けてみる。

発達障がいのある子の「学びの物語」の一例



現在のおたより～写真を多く取り入れて～

3. 保育のおたよりの「バスキャッチ」による配信

「バスキャッチ」とは、VISH 株式会社のバス運行ソフトです。もともとは冬期間に、保護者と子どもを雪の中で通園バスを長時間お待たせしないよう、保護者と子どものために導入したのですが、ソフトの「お知らせメール」の機能を使って、日々の保育のおたよりを週 2 回配信しています。「バスキャッチ」によるおたよりの配信は、幼稚園での子どもたちの生き生きとした姿を、保護者にお知らせするための大切な方法であるとともに、子どもたち、そして保育に対する保育者の思いを発信していく方法として位置付けています。

件名 : 小さな心で～葛藤～

2017年6月22日 17時33分 準備
おとこの話から…総練習に向けてリリーの話し合いを詰めました。話し合いが進んで行くうちに子どもたちにも色んなドラマがありました。
男子のボクが決まらず話し合いで…がいつもの誰でもアンカーとは様子が見えません。2人とも「やった事もないから」「勝たないし」静かな駆け引きです。
私も正義感に駆り立てました。その2人はいずれもアンカーを、他の子に譲ってきたからです。最後に困った2人…私に託してききました「先生に決めてほしい」「先生って？」胸がいびいになりすぐに答えが出せません。
小さな心で響ける室…さくらさんと相談し、明日2人が決めたやり方で決まらず。みんなもどちらがなっても「お任せするし」そんな素直な言葉が聞かれた今日の帰りの会でした。
夕暮ゆ夢



「バスキャッチ」で配信したおたよりの一例

	とても思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない
幼稚園での子どもの遊び、生活の機がよくなるようになった。	58.5%	35.2%	4.5%	1.7%	0%
幼稚園で子どもが取り組んでいる遊びに興味を持てるようになった。	43.9%	44.4%	10.6%	1.1%	0%
子どもの新たな姿を見つけられるようになった。	38.5%	49.5%	7.7%	4.4%	0%
学級の子どもの成長が楽しみになった。	68.1%	22.0%	8.8%	1.1%	0%
幼稚園での出来事について子どもと話し機会が増えた。	55.8%	32.0%	8.8%	2.8%	0.6%
幼稚園での遊びを家で子どもと一緒にするようになった。	17.2%	38.9%	28.9%	13.9%	1.1%
幼稚園での出来事についての保護者と話す機会ができた。	25.1%	36.9%	21.2%	14.0%	2.8%
行事に向けての幼稚園での取り組みがよくなった。	54.9%	36.3%	7.7%	1.1%	0%
子どもたち、保育に対する先生の思い、考えがよく分かった。	42.5%	44.2%	10.5%	2.8%	0%

「バスキャッチ」のおたよりに対する
保護者アンケートの結果

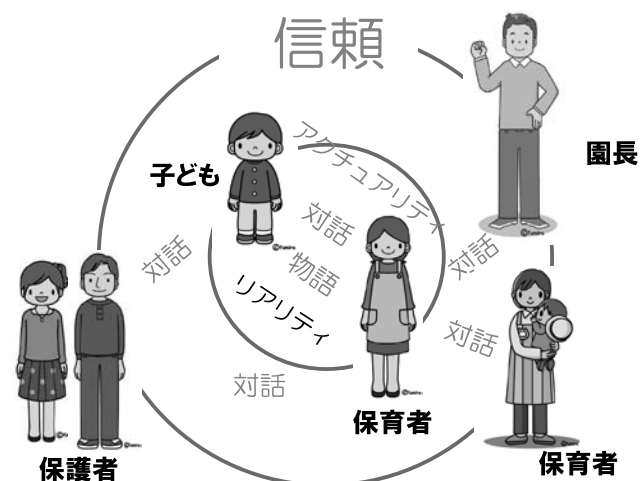
3. 新しい記録に取り組むことで見てきたこと（小泉柚香）

その日にあった子ども達のエピソードを記録することで、新しい気付きや発見がたくさんありました。今まで以上に子ども同士のやり取りや会話に耳を傾けるようになり、最後まで見守ることで子どもの成長がよくわかりました。

学年の先生との会話も増え、情報を共有することで、別の視点の意見を聞くことができます。自分にはない捉え方や考え方を聞き日々学んでいます。保護者への発信の仕方は、写真が入ることでより伝わりやすくなりました。子ども同士の育ちを保護者とも共感できることがとても嬉しいです。

4. 共同研究者から（吉川和幸）

「一人ひとりの子どものもつ子どもらしさを大切に育てよう、支えよう」。共同研究を始めた時、そしてこれからも目指していくことです。何かができるようになるなど、目に見える子どもの変化（リアリティ）だけではなく、数量化できない、子どもたちの豊かな感情や人間的経験（アクリュアリティ）に迫るために、星の子幼稚園では、「物語」（ナラティブ）を通した子ども理解と、「対話」の組織作りにこれまで取り組んできました。実践を積み重ねる中で、子ども、保育者、保護者が、信頼に根ざした記録と対話により繋がっていくのを、年を追うごとに感じています。これからもお互いの信頼が空気として存在する、そんな子育て、子育ち、親育ち、保育者育ちの場を作っていくことを研究者としてお手伝いできたらと考えています。



記録（物語）と対話と信頼の枠組み

5. まとめ（上村毅）

記録により、保育者同士・保護者同士・保育者と保護者が、子どもの成長を通して繋がり、幼稚園での生活をみんなで見守っていくようになりました。

今後も保育者、保護者が、保育を通して対話ができるような環境づくりをしていきたいと
思います。

5歳児の話し合いの成長と学び

菅原智美（認定こども園七松幼稚園保育主幹教諭）

横山菜奈（認定こども園七松幼稚園保育教諭）

目的

当園は、平成28年度より幼稚園から幼保連携型認定こども園（1号認定406名定員、2号・3号認定60名定員）に移行し、保育の方針も学年ごとの一斉保育から、各クラスの保育へと変えている段階である。

本発表では、日々の活動の中で様々なテーマについて1年間話し合った。子ども同士が話し合いの中で、テーマについて試行錯誤し、問題解決をしていくことにより、個々の子どもの成長と、友だち同士の関係性、話し合いの状況の変化について発表する。

方法

期間 2016年4月～2017年3月

対象者 5歳児クラス・男児15名 女児17名

研究方法

日々の活動の中で、様々なテーマについて1年間話し合い活動を観察し、継続的に記録を行った。更に、2学期10月末、保護者から子どもの友だちとの関係性について相談を受けたことをきっかけに、「友だち」という1つのテーマについても定期的に話し合うことにした。その日々の記録をもとに、子ども達同士が話し合いの中で問題解決をしていくことにより、子ども達の関係性にどのような変化があったのか、又、継続して話し合いをしていくことで、話し合いの状況がどのように変化したのか日々の記録をもとに考察した。

結果

1学期（模索期）

子どもの姿

- ・全体での話し合いの後、少人数での話し合いを行う。
- ・少人数での話し合いの機会を増やし、話し合いの仕方を知る。（写真①、写真②）

話し合いの状況

- ・発言する子どもとしない子どもの差が激しい。
- ・発言力のある子どもの意見が通りやすい状況である。
- ・意見の主張のし合いでトラブルになる。

保育者の状況

- ・全体での話し合いでは、保育者が司会・進行を行う。
- ・あまりにも話の収拾がつかない時には、保育者が

仲介に入る。



写真① 少人数での話し合いの様子



写真② 少人数での話し合いの様子

2学期（試行錯誤期）

子どもの姿

- ・自分達だけでは、話し合いがなかなかまとまらない状態。
- ・子ども達が話し合いを進行していくようになる
- ・「友だち」というテーマで週に1度話し合いを開始。

話し合いの状況

- ・あまり意見を言わなかった子どもが発言するようになる。
- ・トラブルが減る。
- ・自分達でイーゼルを使用して話し合いをする姿が見られる。（写真③）
- ・自分の話を聞き相手の意見を認めることができるようになる。
- ・子ども自ら話し合いの時間を作って欲しいと言い、話し合いが始まるようになる。（写真④）

- ・友だちの話を、自分に置き換えて考え、発言するようになる。

保育者の状況

- ・話し合いが難攻している場合は、助言したり、提案したりする。
- ・保育者は子ども達側として話し合いに参加する。



写真③ 全体での話し合いの様子



写真④ 子ども自ら話し合いの時間を作って欲しいと言ひ話し合った日の様子

3 学期（発展期）

子どもの姿

- ・子ども達自身が話し合いのテーマを提案するようになる。（写真⑤）

話し合いの状況

- ・同じテーマについてより深く考え、子ども達自ら繰り返し話し合う姿が見られるようになった。

保育者の状況

- ・保育者は話し合いに参加せず見守る。

模索期では、保育者が全体での話し合いを進め見本となり、少人数の話し合いからクラス全体での話し合いが段階を経て取り組んでいく中で、子ども達話し合いの仕方を学び次第に自分達だけで行うことが出来るようになって

た。

試行錯誤期では、その過程の中で「友だち」という決まった1つのテーマを定期的に継続して行うことにより、友だちについて子ども達自身が深く考える機会が増えた。

発展期では、話し合いの中でテーマについて深く考えることによって、友だちとの関わり方や、ルールを守る意味、人には心があることなどを学び、心が育つことによって、クラスとしても助け合う姿が多く見られるようになった。



写真⑤ 子ども達だけで話し合いをしている様子

考察

- ・話し合いの中で、保育者が司会・進行を勤め見本となることで、話し合いの仕方を学んだと考えられる。
- ・保護者からの相談をきっかけに、「友だち」という1つのテーマを継続的に話し合うようになり、話し合いが日常的になったことで、日々の中での様々なトラブルを自発的に話し合いで解決していこうとする意識が高まり、話し合いの質が深まったと考えられる。
- ・話し合いを通して、相手の意見を認めたり、相手の感情を理解し、友だちとの関わり方を改めたりすることにより、子ども達同士の関係もより深まったと考えられる。

課題

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を踏まえて、園の教育目標に沿った話し合い活動ができるように取り組んでいきたいと考える。

平成30年度

日本私立学校振興・共済事業団より 特定健康診査のご案内を送付します!

特定健康診査とは?

40才から75才(誕生日前日まで)の加入者及び被扶養者に対して実施するメタボリックシンドロームに特化した健診です。

私学事業団



被扶養者分
健診データ

医療機関



特定健康診査のご案内
受診券(被扶養者分)

加入者の定期健診結果
(人間ドックを含む)

必ずお渡し
ください!

私立幼稚園



受診券
(被扶養者分)

ご家族(被扶養者)



特定健康診査受診
(平成31年3月31日まで)

メンタルヘルス等相談サービス

相談料無料

私学事業団健康相談ダイヤル

心と体のさまざまなご相談に医師・保健師・助産師・看護師などがお応えします。

対象者: 加入者(任意継続加入者を含む)とそのご家族及び75歳以上の教職員

健康相談

メンタルヘルス相談

医療相談

育児・介護相談

通話料
無料

0120-24-7831

24時間
年中無休

WebカウンセリングURL

<https://t-pec.jp/websoudan/>

ユーザー名: shigaku

パスワード: 247831

電話・面談・Webによるメンタルヘルスカウンセリングも行っています(面談は、年度内5回まで無料)。

通話料無料 0120-36-8102 セカンドオピニオン相談 月曜日～土曜日 午前9時～午後6時
プライバシー保護を厳守しておりますので、安心してご利用ください。

日本私立学校振興・共済事業団

福祉部 保健課 健康管理係・保健係

〒113-8441 東京都文京区湯島1-7-5

電話 03 (3813) 5321 (代表)

FAX 03 (3812) 8775

魅力ある人材を育成するために

静岡県では昭和 62 年より「いのち育む」～私立幼稚園の教師のために～という指導書を発刊しています。この本は、全教員を対象としていますが県内の私立幼稚園に就職する初任者教員には、研修会にて配布されます。

発刊にあたっては当時県内の 90 名を超える先生方の熱意と努力によって私立幼稚園教員のための立派な指導書が生まれました。

『本書の題名を幼児教育の重大な責任と崇高な使命に携わる私共の責務にかんがみ「いのち育む」といたしました。「はぐくむ」は現在漢字書きされない言葉ですが、幼児を育てていく保育の場に即し、あえて育む（はぐくむ）と漢字書きにしました。』（プロジェクト委員会抜粋）

これまでに何回かの改訂を経て、今回も教育要領の改訂に伴い改訂版が発刊され、8 月の初任者研修にて配布する予定です。この本や研修を通じて何事にも意欲的に取り組み使命感のある先生になれるよう、願っております。

近年幼稚園教諭をめざす学生が減少してきています。その中で、将来にわたり優秀な教員を確保でき、また幼稚園が学生にとって魅力ある職場となるよう、県内外の教員養成機関、約 25 校との意見交換会を毎年開催しています。

少人数の分科会で、幼稚園側からは、採用したい新規教員の気質・知識・能力等を伝え、養成機関からは、求人についての諸質問及び、最近の学生が望む就職要件は何かなどの意見が活発に出されています。

子ども達の生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期を担う幼稚園という教育機関において、子どもと関わる楽しさややりがいを 1 人でも多くの学生に伝えていきたいです。

（（一社）静岡県私立幼稚園振興協会副理事長、富士市・認定こども園みのる幼稚園／田中邦昌）

京都府知事交代の場で

この度 16 年に渡り、京都府政を担った山田啓二知事がご勇退されました。退任式では名残を惜しむ多くの方で府庁の広場が埋め尽くされました。歴代の京都府私立幼稚園連盟の理事長や関係者も感謝の思いを伝えようと集まりました。「退任を表明してから多くの人にご苦労様の言葉を頂いた。私にとっての金メダルだ。」と花束を受け取られ、笑顔で府庁を後にされました。

式の終了後には喪失感のようなものを感じました。山田知事がいかに私たち私立幼稚園に寄り添っていたか、その存在の大きさを痛感しました。例えば幼稚園連盟の諸行事へのご出席は延べ 100 回を超えます。園児たちとの交流、PTA へ励ましをされる姿が思い起こされます。

難しい課題に熱意をもって働きかけてきた我々にとって、自ら現場で様々な意見を聞き、解決を目指してくれる行政のトップリーダーとの繋がりがいかに支えであったかと思い返されます。同時に、これまで歴代の理事長や理事、会員の皆様のご尽力のもとに築き上げられたこの繋がりを絶やさないよう、取り組んでいかなくてはと背筋の伸びる思いが致しました。

継承と発展を掲げ、西脇隆俊新知事が就任されました。就任式では「課題解決は現場にある」とご挨拶されました。先日催された園児大会では両膝をついて園児たちに応えておられる姿に、お人柄を垣間見ることが出来ました。

京都府は多くの幼稚園が私学助成園です。新制度後は市町村部局との関係性が重要となることは言うまでもありません。しかし都道府県との繋がりがなくなる訳ではありません。これからも子ども達の幸せの為、教育環境の充実を目指し、各園の皆様と頑張ってまいります。

（（公社）京都府私立幼稚園連盟振興担当副理事長、亀岡市・千代川幼稚園／野々村誠一）

編集後記

6年前に植樹したシラカシ（どんぐりの木）に、一昨年からどんぐりが出来るようになりました。この時期シラカシは、白い小さな花を咲かせます。今年は過去最高の数の花が咲きました。植樹から3年目に初めて花が咲いたとき、秋にはきっとどんぐりが出来るのだろうと大いに期待しましたが、どんぐりはできませんでした。花の数とどんぐりの数の関係はよくわかりませんが、何となくこの秋には大量のどんぐりができるような気がしてい

ます。園庭改良に着手した年に植えたトチノキや西宮から来たムクロジは背丈が2倍以上になりました。植物は、すぐに結果を見ることはできません。毎日の愛情溢れる関りの中で少しずつ成長していくものではないでしょうか。子ども達も日々の愛情溢れる保育の中で少しずつ成長していきます。すぐに結果の表れることだけに目を向けていると大切なことを見逃してしまうかもしれません。

（調査広報編集委員・波岡伸郎）

平成30年度（第5回）免許状更新講習の認定一覧

●必修領域「全ての受講者が受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
北海道 旭川市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月3日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	佐藤 貴虎（旭川大学短期大学部幼児教育学科教授） 片桐 正敏（北海道教育大学旭川校教授）	6時間	平成30年8月2日	100人	平30-80011-100999号
北海道 札幌市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月3日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	佐藤 貴虎（旭川大学短期大学部幼児教育学科教授） 片桐 正敏（北海道教育大学旭川校教授）	6時間	平成30年8月2日	150人	平30-80011-101000号
神奈川県 大和市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月3日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	山室 吉孝（鶴見大学短期大学部保育科教授）	6時間	平成30年8月2日	250人	平30-80011-101002号
神奈川県 川崎市	【幼稚園をめぐる教育の最新事情】「幼稚園をめぐる近年の状況の変化を踏まえた教員の役割」「子どもの生活習慣とからだの変化を踏まえた課題について」考える。「選択必修領域講習」の開催日時は8月1日と2日それぞれの午方を設定し連続して行うものです。	堀 純子（洗足こども短期大学幼児教育保育科准教授） 曾野 麻紀（洗足こども短期大学幼児教育保育科講師）	6時間	平成30年8月1日～ 平成30年8月2日	180人	平30-80011-101003号
神奈川県 横浜市	幼稚園教育要領改訂も進められ、新たな保育のあり方が求められている。その背景には、子どもを取り巻く環境の変化があり、世界的な保育の質への関心の高まり、子どもを一人の人間として見るなどの子ども観などがある。その中で具体的には、子ども主体の遊びが学びであること、協同的な学びへの関心が大きくなっている。ここでは、そうしたこれからの幼稚園教諭に求められる現代的な課題について、具体的なワークを通して学んでいきたい。なお、本講習は8月27日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	大豆生田 啓友（玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授） 三谷 大紀（関東学院大学教育学部こども発達学科准教授）	6時間	平成30年8月28日	100人	平30-80011-101004号
大阪府 大阪市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月2日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	中橋 美穂（大阪教育大学初等教育課程初等教育講座准教授）	6時間	平成30年8月3日	200人	平30-80011-101001号
兵庫県 神戸市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月22日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	鈴木 正敏（兵庫教育大学准教授）	6時間	平成30年8月21日	120人	平30-80011-100998号
広島県 広島市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月7日の選択必修と連続して行うものです。	黒田 秀樹（九州女子短期大学非常勤講師） 中邑 隆哉（岩国短期大学非常勤講師）	6時間	平成30年8月8日	150人	平30-80011-100997号

●選択必修領域「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
北海道 旭川市	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」の2項目について、幼稚園教諭に求められる最新の知識の修得と今日的な教育的課題についての理解を深めることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。なお、本講習は8月2日開催の必修講習と連続して行うものです。	傳馬 淳一郎（名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科准教授） 稲井 智義（北海道教育大学旭川校講師）	6 時間	平成 30 年 8 月 3 日	100 人	平 30-80011-302173 号
北海道 札幌市	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」の2項目について、幼稚園教諭に求められる最新の知識の修得と今日的な教育的課題についての理解を深めることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。なお、本講習は8月2日開催の必修講習と連続して行うものです。	傳馬 淳一郎（名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科准教授） 稲井 智義（北海道教育大学旭川校講師）	6 時間	平成 30 年 8 月 3 日	150 人	平 30-80011-302174 号
神奈川県 大和市	中央教育審議会答申を踏まえて、幼稚園教育要領及び学習指導要領の改訂の動向を解説する。そして、その動向を基に未来に必要とされる人材について考察を加え、子どもとの関わりや幼稚園経営の方法について、脳神経科学や内発的動機づけなどの心理学に関する新しい知見を取り入れて講義する。なお、本講習は8月2日開催の必修講習と連続して行うものです。	橋本 弘道（鶴見大学短期大学部准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 3 日	250 人	平 30-80011-302176 号
神奈川県 川崎市	本講習は「園内外における質の高い連携をめざして」「新学習指導要領における小学校1年生の学習内容からみた幼小接続について」の事項について、教員に求められる最新の知識・技能の習得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。「必修領域講習」の開催日時は8月1日と2日それぞれの午後に設定し連続して行うものです。	坪井 葉子（洗足こども短期大学幼児教育保育科教授） 並木 真理子（洗足こども短期大学幼児教育保育科准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 1 日～ 平成 30 年 8 月 2 日	180 人	平 30-80011-302177 号
神奈川県 横浜市	幼稚園・認定こども園などを巡る近年の課題は大変大きくだけでなく社会的な注目を集めている。そのような中で、保護者からの要望の高さや子どもに対応する難しさなどが保育現場では課題とされている。また、園の安全に対する管理が必要なのは当然であり、その中で具体的な保護者対応や園としての発信の課題がある。本講座では上記の課題解決に向けて必要な園としての在り方、更に保育者の意識の方向性などについて具体的に検討したい。なお、本講習は8月28日開催の必修講習と連続して行うものです。	若月 芳浩（玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 27 日	100 人	平 30-80011-302178 号
大阪府 大阪市	このたび改訂が行われた幼稚園教育要領には、これまで以上に子どもの学びや育ちをどのように保障するかが盛り込まれている。その際、幼児教育・保育に関する国際的な研究動向を見据えて、幼児にふさわしい生活や活動を通して、いかに学びや育ちを支えていくか、実践を踏まえながら検討していく。 なお、本講習は8月3日開催の必修講習と連続して行うものです。	小田 豊（聖徳大学児童学科教授） 鈴木 正敏（兵庫教育大学学校教育研究科准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 2 日	200 人	平 30-80011-302175 号
兵庫県 神戸市	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月21日開催の必修講習と連続して行うものです。	小田 豊（聖徳大学児童学科教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 22 日	120 人	平 30-80011-302172 号
広島県 広島市	本講習は、「教育政策の動向について」、「学校内外における連携協力について」の内容で行われ、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。 本講習は8月8日の必修と連続して行うものです。	田中 雅道（大阪教育大学非常勤講師） 淵 和子（西南大学短期大学部非常勤講師）	6 時間	平成 30 年 8 月 7 日	150	平 30-80011-302171 号

●選択領域「受講者が任意に選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
青森県 弘前市	本講座では、保育の専門性を高めるために三講座を実施し、自身の保育実践を振り返る時とする。講座Ⅰでは東日本大震災の教訓を基に、子どもたちや保育者のこころの回復について考える。講座Ⅱでは、保育者が日々記載している保育記録について、その意義と方法について改めて考える機会とする。また講座Ⅲでは、講座Ⅱをうけて様々な記録の方法を学び、明日の保育へつなげる記録について考える。	三道 なぎさ（東北女子大学助教） 岡本 潤子（青森明の星短期大学非常勤講師） 石川 悟司（盛岡大学文学部児童教育学科准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 10 日	30 人	平 30-80011-508485 号
宮城県 仙台市	本講習では「カリキュラムマネジメント」と「満3歳児保育を考える」をテーマに講義を行う。 カリキュラムマネジメントについて学び、乳児期から幼児期の発達の特徴を概観し、保育現場の事例を検討しながら乳児期から幼児期へとつながる子どもの姿、保育者の関わり方、3歳児保育で大切にしたいことを考察する。	山下 文一（松蔭大学教授） 前田 有秀（尚絅学院大学准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 10 日	200 人	平 30-80011-508488 号
宮城県 仙台市	本講習では「気になりな子どもと向き合うコツ」と「幼稚園の役割を考える」をテーマに講義を行う。 障がいに限らず、保育者にとって気になりな子どもと出会った際に一番最初に心がけるべきことは何か、保育者は日ごろからどのような行動観察やチームワークを整えておくべきかについて学び、子どもと家庭と幼稚園のつながりを考える。	氏家 靖浩（仙台白百合女子大学教授） 鈴木 純子（仙台青葉学院短期大学教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 11 日	150 人	平 30-80011-508489 号
茨城県 土浦市	・幼児期の社会性の発達には、環境が大きな影響を与える。子どもの自己制御能力に注目し、その発達の捉え方と能力に応じた適切な関わり方を考える。また保育者同士や保護者との連携は不可欠だが、グループワークを通して自分のコミュニケーション方法を見直してみる。 ・発達障害など配慮が必要な子の「困り感」を知り、その支援を学ぶ。教育のユニバーサルデザイン化の視点から、配慮を要する子の支援として0～2歳児の対応や就学上の課題にも触れ多様な支援を学ぶ。	室谷 直子（常磐短期大学幼児教育保育学科准教授） 大内 晶子（常磐短期大学幼児教育保育学科准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 5 日	120 人	平 30-80011-508490 号

茨城県 水戸市	・幼児期の社会性の発達には、環境が大きな影響を与える。子どもの自己制御能力に注目し、その発達の捉え方と能力に応じた適切な関わり方を考える。また保育者同士や保護者との連携は不可欠だが、グループワークを通して自分のコミュニケーション方法を見直してみる。 ・発達障害など配慮が必要な子の「困り感」を知り、その支援を学ぶ。教育のユニバーサルデザイン化の視点から、配慮を要する子の支援として0～2歳児の対応や就学上の課題にも触れ多様な支援を学ぶ。	室谷 直子（常磐短期大学幼児教育保育学科准教授） 大内 晶子（常磐短期大学幼児教育保育学科准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 19 日	100 人	平 30-80011-508491 号
群馬県 渋川市	本講習は、国公私立の区別なく、幼稚園教育に携わる教諭の多様なニーズに応じ、幼稚園教育における専門的な知識や技能の習得、幼稚園教諭としての資質向上を目的に意義あるものとする。具体的には「小学校との接続」を中心に、乳幼児期から児童期に繋がる発達の理解や子どもの内面の理解、学びに向かう力を育むための実践上の工夫など幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の内容を踏まえながら、教育現場で役立つ内容で構成する。	平山 許江（立正大学大学院非常勤講師） 柳 晋（育英短期大学保育学科教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 6 日	30 人	平 30-80011-508493 号
群馬県 渋川市	本講習は、国公私立の区別なく、幼稚園教育に携わる教諭の多様なニーズに応じ、幼稚園教育における専門的な知識や技能の習得、幼稚園教諭としての資質向上を目的に意義あるものとする。具体的には「小学校との接続」を中心に、乳幼児期から児童期に繋がる発達の理解、環境との関わりから見えてくる幼児期の学びなど幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の内容を踏まえ、実践的な内容で構成する。なお、受講者自らが課題を持ち寄り、分科会形式で協議を行いそれぞれのテーマに臨む。	久保 健太（関東学院大学講師） 柳 晋（育英短期大学保育学科教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 7 日	30 人	平 30-80011-508494 号
群馬県 渋川市	本講習は、国公私立の区別なく、幼稚園教育に携わる保育教諭の多様なニーズに応じるための講習、幼児教育における専門的な知識や技能の習得、保育教諭としての資質向上のための意義ある講座とするために、新教育要領の理解と実践を中心に、乳幼児期からその後の教育へのつながりを考えていきたい。	箕輪 潤子（武蔵野大学教育学部児童教育学科准教授） 野井 貞吾（日本体育大学教授） 柳 晋（育英短期大学保育学科教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 9 日～ 平成 30 年 8 月 10 日	30 人	平 30-80011-508495 号
千葉県 千葉市	本講習は、国公私立の区別なく、幼稚園教育に携わる教諭の多様なニーズに応じた講習、幼稚園教育における専門的な知識や技能の習得、幼稚園教諭としての資質向上のための意義ある講座とするため①現場に生かす幼稚園教育要領について②理想的教育課程作成についてなどを中心に講義等を行います。	中澤 潤（植草学園短期大学学長） 太田 光洋（長野県立大学教授） 小川 晶（植草学園大学准教授） 鈴木 隆司（千葉大学教授） 花輪 充（東京家政大学教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 21 日～ 平成 30 年 8 月 22 日	100 人	平 30-80011-508500 号
東京都 千代田区	幼稚園教育に携わる教諭の多様なニーズに応じるため 4 人の専門家による講座を開設する。最新の専門的な知識・技能の習得と、今日的な幼稚園教育の課題についての理解を深めることを目指す。	篠原 孝子（聖徳大学兼任講師） 小林 紀子（青山学院大学教授） 岡上 直子（十文字学園女子大学教授） 中坪 史典（広島大学大学院教育学研究科准教授）	12 時間	平成 30 年 8 月 3 日～ 平成 30 年 8 月 4 日	200 人	平 30-80011-508482 号
神奈川県 相模原市	【講座 1】「子どもの版画遊び」ローラーやスタンプなどを用いた凸版、型紙を用いた孔版など、子どもの版画遊びと技法を解説する。また、簡単にできる子ども向けに開発した平板（紙平板画）による版画活動を体験する。【講座 2】「多様な子どもたちのための音楽活動」子どもの発達のニーズに応じた「音楽療法」や、音楽環境を取り入れた「サウンドエデュケーション」をモチーフにした、音楽ゲームや自由な音楽活動を体験する。インクルーシブな音楽活動の理念と実践について検証する。	稲田 大祐（相模女子大学学芸学部子ども教育学科准教授） 大竹 紀子（相模女子大学学芸学部子ども教育学科教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 1 日	30 人	平 30-80011-508501 号
神奈川県 相模原市	【講座 A】「障がいのある子どもの保育」近年、「発達障がい」や「気になる子ども」という言葉を耳にする。保育中、何度言い聞かせてもわからない、大泣き怒ってしまう、そのような配慮が必要な子どもの保育についてワークショップを交えて考えていく。【講座 B】日常の保育において、保育者が「気になる」子どもに焦点をあて、その子どもが幼稚園での生活や遊びの中で経験していることの意味について、「ものとかかわり」、「人とかかわり」を丁寧に読み解くことを通して考えることで、子ども理解を深めていく。	河合 高鋭（鶴見大学短期大学部保育科講師） 宇田川 久美子（相模女子大学准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 1 日	200 人	平 30-80011-508502 号
神奈川県 相模原市	「幼児期における運動遊びの必要性と展開」 「運動遊び」は、幼児期からの多様な動きの獲得や体力・運動能力に影響を及ぼすものである。子どもたちにとって必要、且つ楽しく安全に行える「運動遊び」について理論と実技を織り交ぜながら理解を深める。	大下 聖治（和泉短期大学教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 1 日	200 人	平 30-80011-508503 号
神奈川県 相模原市	【講座 A】「改訂要領から今後の保育を考える」新「幼稚園教育要領」の背景や内容の基本を捉えながら、「保育所保育指針」との関連性や小学校教育への接続にも触れ、今後の幼児教育の在り方を考える。後半では、新しく要領に記載された「10 の姿」を取り上げ、子どもをみる視点として実践に取り入れることの課題や意味を探っていく。【講座 B】「幼児理解の実践」多様な子どもが利用する幼児教育の現場では、幼児理解の重要性は増してきている。そこで具体的な実践事例の検討とディスカッションを中心に幼児理解の実践を検討する。	金元 あゆみ（相模女子大学講師） 角田 雅昭（相模女子大学准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 2 日	200 人	平 30-80011-508504 号
神奈川県 相模原市	【講座 A】近年、大きな社会問題となっている児童虐待について、制度政策の動向と、児童相談所、児童養護施設などの現状について概説する。その上で、認定子ども園や幼稚園、保育所等の実践現場における、児童虐待の予防と早期発見について、ソーシャルワークの視点から、演習を交えて考えたい。【講座 B】保育の質を担保する上で重要となる保育者の同僚性について言及し、子どもの育ちをともに見守り、喜び、味わいながら、よりよい実践に向かうための保育者間の関係づくり、新人を支える同僚の役割について解説する。	中島 健一朗（相模女子大学専任講師） 浅見 佳子（相模女子大学専任講師）	6 時間	平成 30 年 8 月 2 日	200 人	平 30-80011-508505 号
神奈川県 相模原市	【講座 A】明治以前にはわらべうたが、明治以降には唱歌や童謡と呼ばれる子どものうたが作られた。子どもの歌が時代と共にどのように変遷してきたのかを概観し、子どもにはどういった曲が相応しいのかを考えるきっかけとしたい。【講座 B】2017 年改訂の幼稚園教育要領において、「多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること」という文言が追加された。「多様な動き」が意味するものは何か、様々な観点から多面的に考察していく。	岡部 芳広（相模女子大学教授） 宗野 文俊（相模女子大学専任講師）	6 時間	平成 30 年 8 月 3 日	200 人	平 30-80011-508506 号

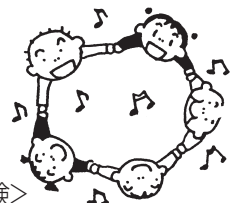
神奈川県 相模原市	〔講座A〕新学習指導要領ではこれまで以上に幼小連携が重視されている。しかし、保育内容（環境）における数と形に関わる分野を保育者が学ぶ機会は決して多くない。本講義では、幼児期における数と形の理論と内容をより具体例を示しながら、次の保育につながる活動を提案する。〔講座B〕2017年改訂の幼稚園教育要領において、「多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること」という文言が追加された。“多様な動き”が意味するものは何か、様々な観点から多面的に考察していく。	池田 仁人（相模女子大学教授） 後藤 学（相模女子大学准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 3 日	200 人	平 30-80011-508507 号
神奈川県 横浜市	近年、質の高い保育が求められています。新幼稚園教育要領も、主体的学びや対話的学び、深い学びに基づいた保育実践を謳っています。そこで、「子どもの今ここ」「さながらの生活」を大事にした質の高い保育実践とはいかなるものか、また、子どもの自己肯定感を高める保育記録とはどのようなものかを最新の研究をもとに考えていきます。	佐藤 康富（鎌倉女子大学短期大学部教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 1 日～ 平成 30 年 8 月 2 日	100 人	平 30-80011-508508 号
神奈川県 横浜市	一人ひとりの子どもの主体的な育ちと学びを支えていくための保育実践の基盤となる「子ども理解」と、その理解に基づいた「援助」を幅広く探究していく幼稚園教諭としての専門性について学び、理解を深めることを目的とします。具体的事例やビデオ・カンファレンスを通して、自らの子どもを捉えるまなざしや保育の枠組みを問い直すと同時に、保育の質を向上していくために必要とされる保育者の資質や、それを支える同僚や保護者との関係構築についても探っていきます。	高嶋 景子（聖心女子大学文学部教育学科准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 9 日	100 人	平 30-80011-508509 号
神奈川県 横浜市	本講習においては幼児の発達を踏まえ、一人一人の子どもに対する適切な援助について探っていきます。子どもの主体性を大切にしながら私たちにどのような援助ができるのか、また自園においてよりよい実践をするうえで必要なことは何かということについても考えていきます。	桐川 敦子（日本女子体育大学幼児発達学専攻准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 20 日	100 人	平 30-80011-508510 号
神奈川県 横浜市	本講習は、障害のある子どもや気になる子どものいる保育のあり方を考えます。対象児の理解を深め、多面的多角的視点から多様化する保育のあり方を考えます。日々の保育を振り返りながら幼児理解を起点に保育の質を高めていく保育実践は、幼稚園における特別支援教育を具体化する鍵になります。そこで、この講習では、保育事例を検討しながら子どもへの援助やクラス経営の進め方、保護者との対応や保護者との連携協働のあり方などについて理解を深め学ぶことを目的とします。	野本 茂夫（國學院大学人間開発学部子ども支援学科教授）	6 時間	平成 30 年 10 月 27 日	100 人	平 30-80011-508511 号
神奈川県 川崎市	「幼稚園における特別支援」「幼稚園における特別支援計画」「専門機関・家庭との連携と保育計画」をもとに幼稚園で支援を必要とする子どもと適切にかかわるために保護者や保育者同士など周囲の人びとが「つながる」ことについて講義する。	久保山 茂樹（国立特別支援教育総合研究所企画部総括研究員）	6 時間	平成 30 年 8 月 3 日	180 人	平 30-80011-508512 号
神奈川県 川崎市	「からだ遊びで発達を促す」「日本の伝統音楽・文化を子どもたちに伝えよう」「子どもの言葉の発達と、発達に即した視聴覚教材」をもとに幼稚園で支援を必要とする子どもと適切にかかわるために保護者や保育者同士など周囲の人びとが「つながる」ことについて講義する。	石濱 加奈子（洗足こども短期大学幼児教育保育学科教授） 長谷川 真由（洗足学園音楽大学音楽学部講師） 並木 真理子（洗足こども短期大学幼児教育保育学科准教授）	6 時間	平成 30 年 9 月 19 日、 平成 30 年 10 月 17 日、 平成 30 年 11 月 14 日	180 人	平 30-80011-508513 号
山梨県 甲府市	乳幼児期における造形活動の過程の変化を「素材・画材・道具との関わりと受けとめ」の視点で考えていきたいと思います。 特に三歳未満児の「もてあそび」の行為を表出（表現）の観点で見つめて、如何に表現に変容するかを考えてみたいと思います。 視点１：内的発見・・・内的循環による自身（心と体）の発見 視点２：外的発見・・・環境への関わり、環境から刺激による発見 視点３：基本技能の展開についての考察 この３つの視点から、乳幼児の造形活動においての表現の変容について考えてみます。	伊藤 美輝（山梨学院短期大学保育科・専攻科保育専攻教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 1 日、 平成 30 年 10 月 17 日、 平成 30 年 11 月 14 日	10 人	平 30-80011-508484 号
大阪府 大阪市	本講習では、子どもたち一人ひとりがもつさまざまな「違い」に着目し、多様性が尊重されるクラス作りについて考えることを通して、共生の社会を実現できる力を子どもたちにいかに育んでいくのかを考えていきます。	卜田 真一郎（常盤会短期大学幼児教育科教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 28 日	120 人	平 30-80011-508496 号
広島県 広島市	・幼稚園教育要領改訂の最新の情報を共有し、これからの保育のあり方を考える。 ・音楽、人形劇、造形など、現場に即した保育技術の向上と知識の獲得をめざす。 ・遊びを通じて自然に親しむことの大切さを学ぶ。	井桁 容子（東京家政大学非常勤講師） 高田 憲治（広島女学院大学非常勤講師） 吉永 早苗（岡山県立大学保健福祉学科教授） 寺田 喜平（川崎医科大学小児科教授） 菊野 秀樹（比治山大学短期大学部幼児教育科教授） 三樹 正典（広島女学院大学幼児教育心理学科教授） 福本 幸夫（広島大学生物生産学部客員教授） 神原 雅之（国立音楽大学音楽文化教育学科教授） 森保 尚美（広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科准教授） 内田 良（名古屋大学大学院発達科学研究科准教授） 中丸 元良（比治山大学短期大学部非常勤講師） 河邊 貴子（聖心女子大学教育学科教育学専攻・初等教育学専攻教授）	12 時間	平成 30 年 8 月 1 日～ 平成 30 年 8 月 2 日	140 人	平 30-80011-508483 号
福岡県 福岡市	講座１近年、保育の現場において「同僚性」は大きな関心を集めています。良い保育は、職場の保育者同士の関係性と密接な関係があります。そのような「同僚性」を高めるための要義を学びます。講座２、就学前の発達や行動等が気になる子どもの見立てや方針の立て方、支援の方法を具体例を通し、保護者支援は、虐待に関する基礎知識や虐待防止の観点を踏まえ、気になる子どもの保護者への接し方や対応を学ぶ	徳安 敦（豊岡短期大学教授） 鬼塚 良太郎（九州龍谷短期大学准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 17 日	120 人	平 30-80011-508497 号
福岡県 北九州市	教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。	北野 幸子（神戸大学大学院准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 21 日	120 人	平 30-80011-508498 号

福岡県 福岡市	テーマ「子どもとつくる保育の理論と実際」 乳幼児は、自分の声を聴き取れながら「自分」を形成していく存在です。そんな子どもたちの声に、いかに耳を傾け、その声を正當に評価しながらつくる保育が「子どもとつくる保育」です。子どもたちが園生活の主人公として活動する保育の姿を、具体的な実践事例を交えながら考えていく講習。	加藤 繁美（山梨大学教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 27 日	120 人	平 30-80011-508499 号
大分県 大分市	子どもの発達を抑えながら教育を進めていくには、園の教育課程の理解や年間指導計画の策定が重要な要素となる。特に幼児理解からの指導計画の策定は、子どもの姿を見取りながら意図的計画的に策定しなければならない。また、幼稚園における未満児保育の理解も進めなければならない。3 歳以前の発達の過程を知ることによって 3 歳以上の教育の理解を深めるとともに、幼稚園が行う 3 歳未満児の保育理解へとつなげる。	田中 敏明（九州女子短期大学教授） 向井 隆久（別府大学短期大学部初等教育科准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 9 日	40 人	平 30-80011-508492 号
宮崎県 宮崎市	安達先生には、「学校組織の一員として、マネジメント・マインドの形成」「保護者・地域社会との連携」「対人関係、日常的コミュニケーションの重要性」等を中心に教員に求められている最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す講習をしていただく。また、山田先生には、幼稚園教育要領の改訂に伴い、園全体でカリキュラム・マネジメントの実施が求められています。講習では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、「P D C A サイクル」、「社会資源の活用」という 3 つの視点から学びます。	安達 譲（大阪教育大学非常勤講師） 山田 裕司（南九州大学人間発達学部子ども教育学科准教授）	6 時間	平成 30 年 8 月 3 日	100 人	平 30-80011-508486 号
鹿児島県 鹿児島市	乳幼児の健康管理や健康教育の進め方、心の発達や発達段階に応じた環境構成及び保育者としてのかわり方等、乳幼児に関する講座を設定する。 新幼稚園教育要領及び幼稚園認定こども園教育・保育要領に基づく教育課程のマネジメントについて講座を設定する。	宇都 弘美（鹿児島女子短期大学教授） 田子山 ゆかり（鹿児島県総合教育センター研究主事）	6 時間	平成 30 年 8 月 8 日	40 人	平 30-80011-508487 号

まさかのときの“JK保険” 全日本私立幼稚園連合会の保険

本保険制度は、全日私幼連が指定した損害保険会社の協力を得て、加盟園のために開発した制度です。

- 園が損害賠償の請求を受けたら ▶ **加入園賠償責任保険**
＜施設賠償責任保険+生産物賠償責任保険＞
- 園児が就園中にケガをしたら ▶ **園管理下の園児傷害保険（O-157補償付）**
＜学校契約団体傷害保険＞
- 24時間・園児の急激かつ偶然な外来の事故によるケガに ▶ **園児24保険（O-157・熱中症・地震補償付等）**
＜総合生活保険（こども総合補償）＞
- 教職員の方の労災事故に対する上乗せ補償に ▶ **労災上乗せ保険**
＜労働災害総合保険（法定外補償保険）＞



詳細については全日私幼連HP・加盟園のページ「お知らせ」に掲載しております

このご案内はJK保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款によりますが、ご不明な点がございましたら、下記引受保険会社までお問い合わせください。

立ちどまらない保険。

MS&AD



TOKIO MARINE
NICHIDO

東京海上日動

三井住友海上
三井住友海上火災保険(株)
TEL:03-5299-7663

東京海上日動火災保険(株)
担当課:公務第二部 文教公務室
TEL:03-3515-4133

CHUBB®

Chubb損害保険(株)
(旧エース損害保険(株))
TEL:03-6364-7110



損保ジャパン日本興亜

損害保険ジャパン日本興亜(株)
TEL:03-3349-5137
平成30年1月作成 17-TC01277